熊野名所記

合本

291
43

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03969

291
48
1

中根文庫

県立高校図書館
28.11.21
登録NO. 3969

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03969

熊野紀之里

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

一原本ニ山ヲ山ノ二
誤トシテ
朱書ハ墨筆ノ
記入ナリ
以記ヲ基ノ辺
実地ニ合フ意ニ
ナシ

熊野めぐり　二十

摂州大坂より泉州妙見山河内天満山同国横尾山、紀州高野山へ熊野三山を巡り和泉の国根来粉川を廻り浪速に帰り道筋を考る事

大坂より堺、三里　堺より深井村、五十丁
深井より妙見山、弥里半　妙見山より天満山、五十丁
天満山より横尾、五十丁　横尾より滝畑、三十丁
滝畑より宮谷、五十丁　宮谷村より中井村
中井村より慈尊院、
但大畑と云ふ所、滝畑より二百丁有りと名所を通りて慈尊院へ出る所や行程と道しるべ中井村の分へ行て

慈光院より京堂山大門まで一丁ニ付の石表百七十二
有正道三里ありといふ也所に紀州伊勢路ハ口ハ八丁を一里
とすれとも山坂川自き所ハ三十六丁を一里とす
といへとも口ハ八丁より多き事なりといふ
京堂山天堂　慈光院より三十六丁目の石表ハ五十丁
より又五十丁ハ
同所ハ矢立、七十四丁　矢立ハ大門、五十丁
大門ハ興院迄五十丁　興院ハ古石峠
古石峠ハ大瀧、五十丁　大瀧ハ木挙、一里
木挙ハ平辻、一里半　平辻ハ大又、三十丁
大俣ハかやホや、十八丁　甚不屋より一西、二里
甚西ハ水ヶ元、半里　水元ハ待平、半里

待平ハ宮ノ川、十八丁　宮川ハ三陣、八丁
三陣ハ矢倉、二里　但待平ハ三陣迄一里とも
矢倉ハ　はりゲ柳元、二里半
又矢倉より右ハ西や矢倉より　柳本、三十丁と
柳本ハ石折、二里半と云ふ　柳本、二里半と云ふ方より
小鬼原谷ハ本宮、五十丁川舟　鬼原谷、百四十二丁
新宮より三輪峠、一里　本宮ハ新宮、九里八丁川舟
平之井より淀宮、一里　三輪ヶ峠ハ平之井、一里
那谷より小口、四里　淀宮ハ那谷、一里
清川より本宮、半里　小口谷ハ清川、三里
又小口谷より本宮、四里
本宮ハ湯峯、十五丁　湯峯より道湯川、二里半
但本宮湯峯ハ道の湯川、小口本宮ハ小口谷ハ
ふたり、出り、一の本道や出ハれとも行程少し遠しと云

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

清川より野出、二里
あふ坂峠ヲ大津州江ニ有り

野中ヶ迫壱、十九丁

近藤ヶ市ヲ、二里十丁
芝村ヶ迫見峠、一里半丁

市原ヶ芝村、十二丁
芝見峠ヶ廿三町、一里半

中三栖ヶ田辺、一里半丁

田辺ヶ南部、二里

南部より中ノ、三里

切辺より印南、半里

印南より松原、三里
小松原、出道原寺、又印南ヶ小松原、三里半十七丁

小松原ヶ原谷、二里
小松原ヶ原谷、一里半迄
小松原ヶ原谷、一里半十七丁

原谷より井関、二里半

井関より湯津、三十丁 又一里半
いとはず

湯津より宮原、一里半

宮原ヶ鷲谷、一里廿五丁、

鷲谷より宮ヶ、一里

宮ヶ中田原 行

宮ヶ中田ヶ小松ヶ長家つ、ゆて仏正半里有

井関より紀三井寺、一里

紀三井寺ヶ妹背、廿五丁

和歌山 和歌浦 加太 淡山より三里行て又淡ヶ淡ヶ

タイノ浦舟渡 南郷新田 淡山より九二里

南郷新田ヶ根来、九二里

根来ヶ粉川、二里

粉川より大木駅、外津通相村 大木、三里

大木より貝塚、三里

貝塚ヶ岸和田、半里

岸和田より堺、四里

堺ヶ大坂、三里

大坂山より無望ヶ宮迄ハ内裏ヶつかヶ十七里余有れとも代
同三海り動いて行ヶ所ヶ所舟渡新新多ーて結末の
根人高野寺を食物ヶ用意すくーよつて くとくーけれとも
たれたりすたとをし出ヶ一里ヶ代至の祝をうきれて使ヶ

いさためて遠美こうつし兵衛のわきまへいりをく旬たこと見なることを書とゝめ置ましとおもへびを給まてとをそ
ふるの張多ゝとん給覽のくゝにしまして秘地へ速く世く
のたゝりすからんかしと
元文四巳年五月十四日　西郡印割発起して講衆並て直に
行て先住すへ社参事ハ城晴を再生の祥と祈る
大坂寺泰村より往古より弘法大師を勝寺跡の方
へ北堺の東橋またへ出大小行の路まつれハ木戸有これより
南へ田の岸細道を行目ハ南の口ハ妙見山への道
ありといふ
深井村法　堺より一里
阿保村といふ所道て道傍ハ大き成妙法の碑有り大小より

右へ下り南へ行右に半田村左ハ松村西村ゝ人家多し
伏尾村左方一町許ゝ池有水階ハ見事成村ゝ一縣有池の堤
上下りて石村右ハ水車ゝ左寺ゝ所ゝ久世郡陣家有ゝ大
民家の家ハ数軒の造村有中ハ七ヶシンの大木有壮見
事也
野田新家松林の中ハ辻堂有此東より斗摩山海辺みゆる
景ゝ西ゝて此壮ゝ西山也又小寺ゝ所ゝ発れハ東ゝ青嶺
山合到ハ二上嶽ゝ比叡山愛宕山元より金城ハさたもれ
見へて西白き所也此所ハ南へ下り東へ行長ゝ池有り東の
四囲のつゝきハ又池二ヶ有
演壮村池ハむすひハ寺一宇見へる池ゝ南へ引右へく
たり東へ引也制水辻堂在又より谷川の村を南へ流りハの

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

方ヘ行

仏見山慈庵寺

日蓮宗の寺也と雨大明神の社有谷を隔て向の山ゐ入寺有
有寺の前ゐ寺院かけ造りかーて度ー此寺の前ゐ天望
山道芝山の上を行脇山見ヘわたりて見ル

芝屋村　中屋村

所ゐ天望山金剛寺　六十六所寺頼三面石有といふ本堂
南向　大師堂東向　鐘楼敲楼其外諸堂多ー堂前ゐ岡部成
寺附ー多ふ大ナ成木鉢ありましゐ山の上ゐ水ゐ大明神を
勧請社の額ゐ無動尊と書たり此社ヘ行所谷川の物凝宮
珠子鏡有左て記

天望山金剛寺　　勧請　御奉行

水ゐ大明神　　片桐東市正
春内大臣豊臣　　慶長十年
朝臣秀頼公　　正月吉日

二王門ハ東向也是井寺ヘハ此門前より行
天望山　大坂ヘハ里
尊物の日此寺院の後園ヘ豊臣秀頼公石原出右ヘハと云
士ゐ命ーて送ふふ大坂ゐ及たれとも其隙の悪かりといふ
ソたゆ東の水とて井と有り
天望山西南の立門ヘ古松山峠ヘの行る是河ゐ泉ゐの関界
也
泉ゐ南西利村　善正村　天望より十八丁これより桂谷
山の某谷川ヲ左右ヘ五度渡て左の方ゐ布引滝とて有り

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

こゝより谷川を左右へ渡る事弐拾弐丁程天より右の方へ登る此所へ美濃寺寺屋と唱へ一ツの石表を立て桂屋山への石ゝ寺谷を登て行ハ名家を へ七ん

桂屋山太平寺　天望より五十丁

西国巡礼所也本堂方七間巾勾也又珠洲焼観音安置を大師堂観音又ハ つきこの外一ツ有其隣とそ社有拝殿の上ハ二体の拝行ゝけ有一ツ位堂拝を泉水黒羽寺黒川弥右衛門と云る中わきハ経塚と有桂屋山へ坂を登りつゝ一て本堂の横の方へ登る金燈籠両座有三間ハ一屋ゝ山ハ谷て本堂ゝ寺和田海辺眺方ハ見ゆる堂前ハ新所塔寺堂迄三丁有立堂の方へ行ハ谷一ツ所有右へ行こし石を きゝ谷川ハ流て川へ坂を此方ハ高ハい条者と堂前ハ大き峠嶮

松一株ゝりこれより寺たりとくたりて河内郡部淋畑村へいたる滝畑へ郡名を 材数多ゝ寺たそより谷川ハ流ふて斜ハの行りわ辺堂を又ゝ川を左右へ三度掛ル橋長ゝ有りを助右衛門といひ一の前年七十六ハ成ゝと称ん滝畑の堂村といふ所ゝ の山中へ出て桂人ハ茶を煮ゝ堂ゝの事かと遠ハたゝしゝ也又ハ谷川を右へ五度掛また流りて滝のことき所ゝ 中ゝ大木の桜数多有所ゝ和の茶多く咲みたれたる恵見事やなをいたこ数多有所て食ゝ見味恵日義也又ハ寺地のことき所を中五丁許ゝ堂を右へ行ハ名家村へ出る堂也ゝ むこ一石山陰ハ通りの道を西へといふ方へ出ハ堂もよく近し

義王堂　河内堂也

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

紀の川辺見て京ヶ瀬と称するかまきれ及び
左へ下り左へわゝ三町を過ぎ下れば又右へ
曲り直ぐ行　成望といふ所こゝにたる
境物より四十五丁ありといふ此所より水車を以て搾油を
製造また谷川を渡りて下る左右田圃なり弥勒村西へ曲り
村中へ曲り村東端村とて有今へ東へ曲り村へ民家二軒
ありて寺住宅中に居あり　てのこゝを過ぎしとや左の山際
に在一村に[redacted]りといふ名称なし社近し孫谷の宮村
家多し紀の川の端を右へ曲り舟渡りこれを中へ曲りの
わたしといふ
紀の中舟渡
右の方山上に物見く古墳あり先方所に見る塚といふと

て慈尊院寺に宿舎数多有り第一クド山村とて高野の家
多く見る
慈尊院
此所へ仏陀大師御母たまこやの前の廟所也大師誕生御勅願
外宮物あり　また胡蝶観音とて在舟を七社明神勅使を慈尊
院より給る　右境道といふ此所より大川より一丁ゝ右東
当百七十二丁目別慈尊院也よつて此の不りかゝるし置付
丁目ハ右の通りといふ是より西へ此所る百六十
八丁より百六十三丁の辺より紀の川の渡所とて民屋紀の
より弥勒へ渡す可見岸を見る前に弥勒塚へ百三十六
丁目の所より目ヲかこまる民所より右へ下り五十許天
満宮おかしむく

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

天王ハ方丈谷の内にあり これより方丈へ行 ます方丈山を
登り誠天王の方丈山陸宇の神ハ社を立り 北の向り自然の
岩か正一位ハ華丹生大明神と書り 仏法大師の筆なりと
云事 曰 宮殿也 いくりハ一礼の帝なり 也 云作大也 仏閣
よりおの社 里の民家あり 家家あり 神祠 数人 是 鳥帽子 神社
神 家 神 の書をつとむ 系 く 敬 録 れハ 所の 表 碑
見 これを 探 ふ
方丈 北方へ上 ふ 向 方 分 者 と 分 者 二の 岩 ひ 立 り 一ハ
正一位 ハ 華丹生大神 一ハ 正一位 ハ 華 寺 霊 大神 と 言 せ
り 大 師 の 筆 なり と いふ 代 行 者 より 方 丈 大 門 迄 百 二 十 丁 是
毎 十 石 表 あり 山 迄 より 第 ヨ おすひ 山 の 麓 第 八 ヨ 百 七
よりなやらふ 宮 こ 是 ふ やり 不 動 堂 社 と 云 所 を 通 り 谷

川 を へ て 民 家 隠 ふ ま た 坂 を 下 り て 古 道 の 方 く 出 ん 七 十 八
丁 と 記 たる 石 ヨ
矢 三 泊 り
道 の 左 の 方 茶 屋 か け 石 ね ー 石 ふ ー 上 ら 石 角 石 と し 板 人 丈
お 鉄 ー の を 以 代 石 を す り 丈 を 出 ま く 七 種 の 木 と ま る
し い 一 株 ふ 枝 七 ヨ 広 い ー 七 い 其 紙 の 文 を 赤 い ふ ー 左
ふ 鉄 石 な 新 道 の 角 ま 渡 舟 場 ヨ 七 丁 松 宮 松 と も あ り 三 十 三
丁 石 の 色 り よ り 大 川 み 有 り
大 川 西 ふ 向 へ り 矢 三 よ り 三 十 丁
二 階 門 あ り 二 王 の 像 ヨ 出 れ よ り 方 丈 の 性 内 ま り 内 ふ 入 也
備 物 宝 家 業 と 並 へ り 門 前 南 の 方 宮 り ヨ 代 所 女 人 堂 を 見
傍 ふ 出 ー の 浴 室 と 大 城 寺 ヨ 其 ふ 五 陵 こ り ヨ 五 ヨ 今

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03969

水門の間ニ

大塔ハ二層の塔也其所を塔上といふ

金堂本尊所図也金剛の塔を七塔の塔といふ一切経蔵あり

鎮守の社ハ舟生寺也二神を祭るを有大明神と云二社並立り有なり

弘法大師唐土有け義堂と稱三鈷の松と云ふ義堂の前ハ

豆腐塔豆腐とも小塔二百丈ハ結堂多し

物ヶ芝柏子杉と云塔上ハ有

熊野の洞といふ塔上同仏井の東南の山をいふ延喜ハ帝の

社也

大塔を遠ク小図寺といふ所有其辺ハ洪鐘有是珍有方

熊川大文正則の奇進なり十二時を撞大時の鐘を号ス

清岩寺といふ大寺有同白雲法公暫く住まします自殺しの

所也今寺号ニ石有りといふ

方山寺ハ　東照宮の御社有寺領千七百石所二寺共ハ小

田原ニ有

瑞竜院表記ハ所謂清水ハ大道り住し裏切といふ寺ハ安塔

院谷ニ有り平家ものがたりハ多門院ハ住しといへり

興隆ハ大塔より二十餘町有其の左右ハ国ニの清信有

りひ富人の石塔数千と一部寺を表ハ大師石塔の前ハ

ハ貧石の行基を無数を彫りたり

大師彫刻石　粉柿といふハ其の方の方　石塔数多有

後の川岸ハ有り

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

貫主光本　かとう　次信　忠信　清忠　無信
教豊　某氏　二十一の名有り土の石塔数多見えず遺
かし

玉川に奥院へ行道の左大塔より十五丁許みな山路より
須弥壇に掛せ小き石表を立
高れとて波やはんん旅人の為めに玉川の水
とよめり歌を詠みたり
陽動君とて旅人をを接遇して病人注意事を祈る
所有の杉柏六丈許り杉の下の水悪流しそへ故障大
師の有所の迹を故障有の杉と名つく俗称いとおくあやま
りてむらやの杉といふ思俗に器量ふのきすのい杉を
通る事を除すといふ貝原先生曰仰蓮隆の真言の好理なと

かハあまねく人信ずべきに俗人に無学なりしかつるあや
しき説を云出るまく人まことと心得るあまねく人ハ云ば
ふせかい妄語を信せざる人多けれいかつる事ぞ問て喜
の法華かし偽のやしかおもひるせいおさまり
万燈堂とて大きなる茅屋を屋根灯をとも多く豪ハ
一燈をたふ事ハ一かたきに古来たつを燈油の勢やたつまり
ず又其中ハ老女の一燈といふる
薬堂とて弦岡の人父母為ゆを丈ハせ曾又剃髪を持来
りて例るか堂を
大師の庵室大ハ三畳の上ハ堂と建たり先年の作の本
堂也新ひきくして長珠院也
万燈堂の前をのいとうて一所計ハ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

鳳凰擁所在塘をも並て高く築て其上に並凡六里に行人
方聖方とて高野三学侶の僧は白装浅黄帽子墨衣せ行
人方は栗色の帽子黒塗のからかさやと云山中随大抵して
僧坊其色に商家また多し商人も皆高さもまた其家業を営ら
正宗院寺家ある所は東西長き谷なり南方に山有て他山見
へず故に風景よからず又冬にことある佳景とす 正宗院
多て町に家の並ありく有を求るに自由也
不動坂は高野の入口なり郭外に女人堂有り諸国より高
野へ来る女人境内へ入すかに許されは郭外を廻りて此堂に入
て休む旦那の僧より酒食を持送りて饗す
此山中には昔より菜蔬を一根も不植 其酒食諸品皆他邦よりと
より持のわる数里の道を運送するも其費やあり といふ まゝ

た山中の寺院等皆厠を河の上にかけて糞は皆水に流す其
故に糞屋を所かと言ふは是より起るとや下流を汲人はけ
これをのむへし
此谷は二字院の上方より登りて院内の 観音ておく路峠
に行方へ不動坂の下はえんまといへとも またかゝすれて 登山
の時便りにせんとて 能き行る人に問て此に記す
不動坂にかゝりの隆有佳景なりと不動堂は中なりといふ
神登は高野の坂半に有大坂より五十丁余の宿あり此間
道けハし馬かよはかかよはる所是此処山の側に桃
花所ゝに多しといふ
鐘鋳と云所神谷より五十丁計に旅籠屋ありと
かむろの宿高野より三里余険くいへるかやや道はの

8 9 15 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03969 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9

妻の墓ありかなるやといふ人ありたれども可伴不つくりて
人ゝくちはりまるれみ小平太を常宗佛ありといふ
長田清水三軒家引と皆方谷住居の跡なり茶屋あり坂く
若を三軒家より方谷へ行道なり
杉原八幡神社独立より三里を紀州家の境山茶屋有紀の
川の西の傍に有所なり杉原より船に乗て西へ下る事
早しといふ杉苗わけ
方杉新屋敷峠を小坂なり
戸たて山ハ性のことく長く広き山也
ゆことを戸をたてまいらするとくみみを名付や
名字ハ方知国字香都と有是人ハ紀州家の内なりと
いふ
弱く弱崩　大門ハ出ると小田原より右へ行道なり

より左へくたり坂なりてまた谷合ハいたる
大滝村　方谷より五十丁長隆寺ハ七十町五茶屋有此
所ハ二ツ谷川有水ハ大きく流れ本を深く杉と竹と
長さ三間計なり高あやうし是を深り方の行ハい酷客家
を此あり右日村なり小学一学校なり教授学と云る教を学
教有又学を受り行南ハ宮ハ山ハ是より　此宮ハ
柳一き所ハ方く吉野かと所ハきまた学を学を休拾坂を集
て開をおたくめ一畳ほくめ　いとはしーかりきまりの内ハ
ちくと一軒西のふりし　紀州屋ハ也　また紀ハ左へ
への石地蔵を吉水ハ峯左左所道を上り　峯道十六里十五
町紀州杉ハ山家屋五百石御使と有此所を十五町計
また茶ハ山ハ紀州と分りて中の上刻ハ水ハ峯ハ

いたるまでふる屋ふかく矢立ふかく石をけふかく雑穀もありといへども米もまれ
なれと牛馬の宿まれなりとなり 此辺より村の家ハ大和紙の製造也家毎に紙ハ家内也
高取領といふ所にて牛馬白米を製し一方にて売ル法の法なふ
井とてあり
水車油り 大庄屋より五十丁ハ宿二軒
牛かい家有
是より いよく きつい山道也 とたいり迄といふ所迄ハ
下り大略石表也 下り 高くハ
平辻 水の車より五十丁
牛石本村ハ十五ヶ所計ハ有と牛家たゝ一軒有 根岸かた一向来
外いろく 書有り 無膳を 軽羊皮 無の皮 数を書 是より 高と
上り石表立 下り 高くハ 谷川を 又 また 十丁計ハ

いつき下り有
大俣 平辻より 二十丁 宿家一軒有り 川を渡り二向 ちか
一向の村を 渡りて また宿家 四五軒 牛下り 新御
の 宿 ハ 出 と いふ 又 より けいつき 上り也
豊本 大 また より 十八ヶ所 称 西 の 方 名 今 ハ 今 ハ
村 と 民家 ハ 多 また 是 より 十八丁 上 り て 常本 廻 と いふ
所 を 仏法 箸 と 称 し て 道 傍 ハ 大 き 成 檜 一 株 を 植 て 牛
宿 有 ふ て 山 と いふ 又 檜 木 時 と いふ と 是 より いよく
時 雨 ハ て 大 木 取 り て 日 を 覆 ふ 松 数 多 入 て 材 木 を 切 出 る し
あふむこ 坂 常本 廻 より 十八丁 を 北 の 方 ふ 急 ふ 松 の み
松 見 者 南 ハ 大 平 そ り 山 みゆ る 是 より 長く 下り 山 の 宇
暖 さ ハ 寒 い 強 き 若 也 是 さ こ り 一 き 石 を 多 て ちやうき 石 多 と 称

人皆労病を知て此道に赴いたる大師法じ給ふ
拙西　おふぢこ顔より十八丁目民家二軒出る是より一
町ばかり上りて下り道すこし
水の元　うへ西より半里目
大師堂ありて法師水を小河下より汲出る牛馬も
出る其邊の日
心能ナラン
牛水呑ム思ナラン
命延ナラン
悪ッ気ナラン
牛不ル老女一人居一の異形を為り頭ハ赤白の髪を乱し
面ハ大赤和尚を急青黛く眼大く光りて黄白く見る人皆ッ
老女の年を尋るハ古十とも云いひまたこと人ハ七十とも
ハ十とも云を聞き合て云詰ハ山姥なとゝ云
もいハ人ハ多ハ老を知らん
右大師堂の前を左へ行て下りを此けゝ中下りの道ハ教
多不なし
徐年　水ヶ元より半里
牛ハ出一軒家也大師宮勝御所を大不二ツ目ハ赤ハ白
いらと云とを庚村名ハ世の世村ハ云ハ牛より下ハ又礼
を建立
牛鬼石道三十町之間
父当家先祖遍法師大坂ヤ淀堅屋孫左衛門造之
拙西道より古屋敷十法川郷也元十里四方五十九ヶ村有

此社寺堂塔左右に位置するといふて位寺有一位一ヶ寺を
十坪ばかりの御朱印地也寺より氏神中に鎮口十五箇所記す
有後軒毎年祭礼千石祭り下置と云また年始八朔両度表代
を以南部は代官わく御役人高五外勤する所盛岡に頭
役の者宗旨と器物を改しわたる 刑部殿といふ
盛岡家御代替ハ御朱印書替
かんの川村有此村名ハ中四丈長八間半しかし洪水ハ
流れと合ハ村本を流せり依村より牛川内を村の流と云ふ
名を後名多と云ふ方の宮いりすり長き村名を明石者の
内ハ三筋と三月と後を牛一丈牛色宮ハ川迄といふ御年よ
りかんの川村迄けいーきより十八丁を
妹ヶ浦村迄 此ヶ年より盛岡

申刻とより不来屋名古と云ふ方の宮ハ長を三筋年ふて近
りを見あを
妹瀬左日座鎮祭ハ左の上ハ幡宮社のわき籔の中也又ハ
外と左日の宮といひて小祠有是下ハ妹瀬勤番と云マのハ
宗宮五十座前後宮ハ右のまゝて旅人ハ入まを作さ
又左ハ右ハわく牛四半の御朱印古来村御下し御号を御宮
宮ハ中巻村といふ不ハ五宮の鎮ハ左名村といふ不ハ
五年夏土用中ハ四半宮合土筋を向き出て風ハ有て日
和晴といふ一人ハ不来ハ日を延ーと云左宮ハ
り川を堀ハ流れ深川の向ハ山をひへて其内せりといふ
へとも山水の風景ハ
宮の川流船五三海村ハ五ヶ筋安五

なれまとめから長崎へ川のこなたなれとへ出村より
より上り五十丁を登し五丁目くらの所名を考の頃郡人往来
多けれいれ　つゆ茶屋有　此出中より待平妹潟村の潟迄
眺ておれて往昔地なと上りつくして茶屋一軒を出れば
三海藻といふ下りなり　三十六丁下れば茶屋二軒を又二
三町下れば宮金村　これより矢倉といふ武田郷蹟尤多し
十丁はかりけハーき所也下りおれば豊かやあり
矢倉村　民家数多五家宮十一此下中村といふ所ありまた
たりけけくよりなる也谷の形多し不表を左往を
本宮へ七里京宮へ十一里と書たり左の方に宮きれの制札
有なり坂を上るかまたは下るまきれなる左の方へなり上り
して行くし一軒家の傍へ出る又右へ下れば海のことき和と

谷川の本大石の間の所へ折すりまつきの花菖蒲しの甚だ多
川を渡りて又左へ入て又小山を過りて千村を渡り民家
六七軒立る西川組の内中村也これより右へ下る天神山と
て有社の前に七間杉を大木を立り紫孔社伊十二
くを勇さとかり此下に谷川を物に又長五間計の橋を川に
のをて水除まをいを添くおせらき村也
東井村此村より縄の間けハーき下りなり　又前に記す通
りの橋を渡りて孫一きをを左の方へ引て又より登る山畑
の細道を通り谷川を本の下に見て切川内の民家十七軒有
多良原村と云川の此方に同村也
田良原村　勘左衛門といふ農夫の宮に入て休また細道
也此辺さつき茶屋り二丁の下り多ホキ潟のことき和と

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

ありて川両へ流る
椎谷村　多良原より十町余　川向ふも同村なりまた右
の川へ谷ヶ谷川ありて長四間余の橋を架わたしそれより
英那子渡村　これも西川組といふ坂の上に大乗妙典
の石経塚を垣を結びて
石橋辺村　是より下り道長けり此所に大石を立て
左を右とめと書き大坂わ澤樵石崎長わ道るといふ文字より
是まで凡五丁　く字岩也
船隠　これ則柳庄の隠しといふ柳本は民家多く浴谷に
ありて道筋には左右文字多しといふ岩の山と川端に船へ
の岩をかけわたし別に一軒も所柳庄の向ふに蔵作村とて新
宮より舟着あり川舟つき数十数多積ぞ山にて入込む

処なる善ふ飯米わ運送あり
柳本泊り　室の川より五里半
それより山に上る柳本川端より峠まで七十二丁余と右表
に志ます毎町石表立て十五丁目桑畑村とて一軒あり五倍
に至る途勧進所あり三十七町めより上左の方に葵を一間許
の庵あり四十町目薬師あり四十五丁目より右左に大木
茂り道よろしく五十五町目一軒家左側に石像の観音安置
に角へり此所より至道りの勧進所也七十五町目より上り坂
雑也　探更此処より雲ありてわさき見へつらし炭わい木
あし石表あり五十に本宮権現へ三里吉野へ十五里撰所吹
田村百姓四人建と有是より下り左右木たし皆材用に切出
したるや大竹木村様数多あり三丁計も下るに両岸てかゝれ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号 03969

る事を吹聴仕しが大山崇敬もありて新山迄ある所に
廻かる岩山おかさかり其外小山数多有りて其谷が十住川
の源天ノ川方外谷川等合流九里ノ所の川面安宮の社
眼下に見へ谷会の瓦屋より左の和口煙出おびけり景
景絶いわれ祝ぎ結構の住居多しとこれ程の
大廻家家に有ると部落人いへり

茶折茶屋　是より下に左右雑松多く　いろくの草木及
ちなむ　と思うるいろの俗に筋より三十丁と称出却
して下りけいこ十五丁目の左の方北谷に十住川筋の内
七ツ谷といふ所より四十丁目石表より出れより本宮ヨ
ハ十丁と書けり七ツ谷より　出茶屋一軒あり此より紀
州年寄部分の左右に谷川あり七ツ谷の上に信貴山数

也右の方に小山有水ノ一山様らすしら白草生ず色と中
迄ハ是はし多しこれより出さて出を下り左の方に
土所名村川家小井村と在

八鬼屋谷

民家の近り雑松の見事成数株あり又竹　入口に大き成梅
の木五抱あり色と いふ有の宮に休憩宮等の所をこうこの
いわく有七いろの出茶屋より川迄十八九町ほとを三十
丁ほとを基数京ありまた四ツ宮山有り是大峯に出ると
いふ右の谷川五七出所へ谷合持ちて右方に集取を配宮
迄五十丁ほり取一解りる五十丁ほを
是より五十丁の間川の左右所のあるたりを間と記す

左右畑村に鬼屋谷に居る五段院大峯入の山伏殿建所

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

三宝寺の義

鬼ヶ城の麓を出ると
三郡川と云流れあり
一五六

大岳と云

とて高あり

右塩薪村

休憩の処り城と称する小山あり
川と山との間に流れ出ること峠に二里ばかりあり

左樹木村落やの松と有

右大井村大せうこ山と称する山を分て村切る事む
といふ

右吟こ山行者堂と云ふ

仏の滝

みつきの原と山あり中れい本宮御鎮座の地子宮
めとき地中より生首を掘出せり故名止て今の所

鎮座の地か宮と云ひ伝へしと也

右切石有り

是へ樵夫の手柔此所にて此石を切りか石と成せ
ものと止ぬ其の手跡

本宮ハ高舟し所ハ入ヲか川あり これを高舟川といふ高か
しの滝高舟川名家せ中川より二里許ハ本宮の手前下国禁
制の石表有本宮に移りて境内廣し川中の所のことし
蓮宮ハ高サ家宮ハ大せ大坂より集会の人ハ此ハ蓮宮ハ 此宮
ハ社家せより 役人をせ一言 此宮ハ此宮を守ると いふ先
年ハ信者て社後も高しかは近年本宮ハ唯一ハ殿りて社信ハ
新宮か出て勢世ハハ おし社家ハ大坂の郡ハ所ハ有り行の切
といふ社家ハ西境の年度ハ笛有り大千て大きものせ

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03969

公要抄言鎮花原也本山 といふ人家所廿 といふ事の由
とハ廿一箇所
神宮巡りとハ公事ゆりて箱をとり下数人出て給遣ハ神業
小五り神社業神供ハ五穀と其料版十二鍬目宮神人巫女数
多出て勇神宮祭り義大みてハいのりハ一くるの面拝しまし
けれハ一人うやくしく毎年四月十五日神社ハ祭礼ハ有り
紀州牟婁郡熊野山本宮御鎮座
日本紀曰伊弉冉尊生火神時被灼神遂去矣故葬紀伊国熊野
之有馬土俗祭此神現有其陵亦以花祭又月数吹播鼓歌舞而
祭矣
古今皇代図云崇神天皇六十五年諸建熊野本宮造伊弉冉尊
霊自有馬村遷音無郷鳥瞰原今 昔宮下命之所居熊野邑此
也今号一郡郡号熊野始此外其後号熊野
延喜式神名帳云牟婁郡熊野早玉神社 熊野坐神社 名神大
坐神是本宮伊弉冉尊也
三代実録曰清和天皇貞観元年正月廿七日紀伊国従五位下
早玉神熊野坐神授従五位上同年五月従五位上熊野早玉神
熊野坐神並授従二位同五年授正二位云
神階進長帝也
聖武天皇延喜七年授正一位
熊野本宮三所大神宮云
日本第一大憲験所
根本熊野三所権現
第一宮　本宮　伊弉冉尊　阿弥陀如来
第二宮　中御前　早玉男命　薬師如来

第三宮　西御前　事解男命　歸佐宮

日本記曰伊弉諾尊與伊弉冉尊相盟乃所唾之神歸曰速玉之男次掃之神歸曰泉津事解男之男

第四宮　若宮　天照大神相殿　國常立尊相殿　歸名一女　王子

以上名上四宮

第五社　忍穂耳尊　歸神師宮

第六社　瓊々杵尊　歸聖宮

第七社　火々出見尊　歸兒宮

第八社　葺不合尊　歸子宮宮

此名中四社

第九社　斯通笑智　大神　歸一萬宮

第十社　埴山姫　土神　歸十萬宮

第十一社　閑笑女命　水神　男勤積十五所

第十二社　雅彦雷命　五穀豐産神　歸飛行宮

此名下四社

日本記曰伊弉冉尊被灼火神而終矣其旦將之間臥生土神埴山姫及水神閑笑女命火神斯通笑智點埴山姫生雅彦雷此神所上穀豐産中生五穀云々

若宮十二所求歸祈願則求歸飛行宮有重而部習合之說而社家不用焉故但書而別之今社傳又不知為何神名其宮歸而已世俗所稱而已

八百萬神拜所社　歸滿条社

御子明神社　天手力男命　石坪

神名帳曰天手力男神社

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

日月星遥拝所

玉置遥拝所

大王騎遥拝所

地主社

但事記曰天香山命香山命下命 天祖天孫尊自天下坐于紀伊国熊野邑又云神武帝熊野高倉下奉妹穂屋姫命為妻生一男云云

高倉下命 穂屋姫命

青岳天神　少彦名神

日本紀曰少彦名命行至熊野御埼遂入于根国矣常世郷矣

素盞嗚尊　鳥牛頭天皇

又曰素盞嗚尊居熊成峯而遂入于根国矣熊成峯即熊野山也

喜田社

伊弉冊尊神墓祭

後所　天児屋根命

天神社　皆岳相神

瀬織津姫社　瀬織津姫命

水戸社　国常女

海神社　海神

八咫烏社　建角身命

古古事記云高木大神之命以覺白之神武天皇自此以後以奠方其使入幸熊野荒坂津之時有八咫烏故其八咫烏引導而從其立後應幸行故隨其教實幸行者到吉野河尻云云八咫烏即武角身命所化也

鈴峯　吉倉下之名也

古事記曰神武天皇巡幸到熊野村之時吉倉下齎一横刀献

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

之曰夢　又聖大神命建御雷神而降訓横刀寄于高倉下之令項
随入臣籠而取持献百年宮鎮座之後為神庫也
清峯王子社　在緑峯村浜泉上
早明神　泉守道命　在所川金村
白井郎曰泉守者白狐其語云有言笑曰吾女汝已生國矣奈
何更求生兵吾則当留此国不可共者実時菊理媛神苏有白
尊問而善之乃歌者
御本明神　菊理媛命　在松尾村
玉置三所神社　吾勇　勇猛男上四宮也
白山社　菊理媛　勇猛本宮姫本明神
三狐神社
以上十社在玉置山

在遠一社之事ハ昔ハ陸奥ハ住けるくの弥三郎と云を
てすけり侍りけるかいかりくるしかりけれハ今二歌
をいこうたせんとおもひきて御神前にて祈たりけ歌の
よ見へけるとかん
歌を御前三十二和の時ハ為ハ和ハ歌ハ世ハ中ハ
人ハけり　後白川院御製
忘るかと思ふ事をハ神へたつる別ハ久しき夕くまの月
神返しかんなきを聖宣せさせたまひけり
去ほ人ハ忘れん君を年つもりて又ハ来ん月
音ハ神の御　能因法師

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

郡人国松ハあきを吉野の郡とハ陸の いと絶みけん

吉野の川の岩ゐを　源　豊詰

郡の花を吉野の浪にたくも折らて送かけるか

音無の橋

吉野かわつ瀬をむす梅花おちかさり共陸の吉野し

千早振無常宮のあさる岩をかわらぬ千鳥のたちしかをかな

雄の山

いたきをいつれ岩ゐ人ちとれつる吉野の郡

熊野川　太上　天皇

くまの川下る里浦の又ゆ梅さきの又ゆ梅ひらひち

牛頭製ハ陸奥相陸武蔵国にまて陸奥無りきと

ハ今世石吉川といふて九里ハ丁の川幅へし

九里浜、勝

牛ゐ村陸郡ゐ名所数多ありて幸ありといへとも　牛ゐ略

五

華を出て船ゐ書て九里ハ丁を新宮ゐくたるまたをう

船人のいへるまを聞て川の左右ゐ沈吉舟の行事ゐ保し

右うけ川村　結川とも牛ゐ吉崎

左吉山村　奈良岳とも五

右大津賀村ゐ津崎村御ゐ深ゐ年　ゐの岩の見上と

角また丘仲の間の見ゐけ岩とも云

水屋ゐかつ一き岩とて大岩二ゐ五

右東飯盛村

左西飯盛村

右むく谷とて吉き岩山ゐり岩接現ゐ用石ゐる所也

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

左鍾木山　そこ　ときなどと　はなれて

左川端ノ音智子石　そこ　あり　此石　ひとつ　ハ　上ノ方ニ　一つの地

蔵ノ屋敷　と也

弥生石川の上ノ　のそ　みて　大御石也　其元の方ハ　土中ノ

あり　土より　外表ハ　四角なり

河合村　早明神の事前ノ部

ハ山川　大峯より　流れて　此川ノ入

小松村　と　て　五

右　れとが村

左　樽枝谷　音楽寺　そこ　五ノ　学薬師　如来　此れハ　治の　大仏　と

十三間堂　林ノ　ハ　也　長家　有やうし　村と　云

右　貝持谷　大石　数多　五　此れハ　ちと　志ちの　ちと　いふ　志ちハ　名

田長川

ハ也

ひたり村

左　机島　そこ　ハ　中ノ　大石　有

和気村　坪　本明神の事前ノ　見ハ　たり

右　のき村　ハ　本村　代下ノ　忍事　ハ　大岩　ノ　又　御　ノ　五

金壹村　達ノ　所石　と　て　五

左　金石　転御石

右　味噌　大　五　り　流れ　そこ　ハ　中ノ　大石　あり　羅所也

左　多多子川　たまこ　村　五　り

右　谷川　深ち

市川滝　市山　ノ　ノ　て　見ル　也

左　三重の滝　そハ　京ノ　よ　ノ　無　ハ　ノ　三重の　滝ノ　ハ　あり

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

右おひこの滝　山の姿豪壮にして深淵数しく人を寄せる
此辺より眺望すれば大雲山の雲取の山見出すといふ今
日は雲て見へず
雄石　此石に舟人祈れかし
左大鳥の森
雌石　木木日し
れと川村
七日巻とて例有詩をまた七日廻りもいる
此辺に多くひとは陸を行き通る事り川より上れ
ると見カ
不知崎
右左下石　真名板石　大岩也

左雲の滝　是を志中せつ以法雲の滝と　せきを以法雲
の滝ともいふとをいふなり事のあるうかたし元来文
字えられい程及也又此辺ハ宇宙山とやらん云事是よ
り此滝新中より見れハ只深大淵清まり新宮言きやら
ハいと人くれと材木を居すに五十年の間かていたらし
といふ
古民家有り一切障物をけーく舟人大きハあり　ふれあ中
方絵も止ぬ
左右伏刑村
鎌りの仏面ありれい魔いらく昼を待へしそを大至尊也
左術門宮ハ入て懸ハ英ーて休ーかれ　面仏出かた
きかハ一宮を教とハ一とを見ハ心おくしてまた舟ハ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

し下りて同し村の内真鶴の家さたのみて今宵いこまん
為
早朝か出立のふの船か無て下り
右箱根島水中か有り樹葉多し
左白糸瀑　是い又是見事也
左小雲山
かめら石　是い大岩石山也
左小椿林村　此村か椿林の産出といふもの、子孫を大
事先遣の法けの枝い元来此家より制出たと也
右南椿林村
左おとも村
右墨石　是事の大石也

相模口ヨリ

左宗門院ヨリ

鮎田村
鮎田川アリ大ナル
鮎ニ多シ

左所船島　毎年九月十五日祭礼の時獻魂と舟か神輿か
遷御業を著三度巡廻すとなり古言あり
此辺より新宮の御見申る所くか大岩洞見
左牛ヶ臭　社の中か社と申す
碇島　水中か見
舟田村
牛の臭の明神社の下か弁財天祭礼と大岩洞あり
岩川村牛臭山麓の阪舟見新宮御の内也
右新宮不明門の前か船着
新宮の城南海かうけて川口より海の方へ
城下の所々く商人多し
水理を願之

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

新宮ノ社ニ在ルトイヘリ此事ハ紀伊国ノ人ノ国ヲ
捨テ此一宮ヲトヽノヘテ符宇ヲ持ヲ進ムルトキ
ヨリ此国ノ山ハ皆ヒヲ焚一社ニ社ヲ建テ
宇佐郡熊野山新宮十二所
日本紀曰伊弉冉尊生文神時秘物而神退去矣故葬於紀伊
国熊野之有馬村焉土俗祭此神之魂者花祭又歌
以獻技那幸而祭矣
又曰伊弉諾尊追至伊弉冉尊所在黄泉路之日悲哉我愛
妹也汝有言矣伊弉諾尊不從猶為之故行伊弉冉尊取眼之
曰汝已見我情我亦見汝情時伊弉諾尊亡甚焉因将出返于
時不直黄泉帰而與之日絶離
又曰不有於彼乃所逢之神號曰速玉之男次掃之神號泉津
事解之男凡二神矣
古今皇代図説曰景行天皇五十八年戊辰始祭熊野速玉神
延喜式神名帳云紀伊国牟婁郡熊野坐早玉社ト熊野坐神名神大
二代実録云貞観元年正月従伊国従五位下熊野坐早玉神熊
野坐神並授従五位上同年五月従五位上熊野早玉神熊野
坐神並授従二位
又書記軍云矣崔院天皇三年二月熊野速玉神授正一位
日本紀云神武天皇遣熊野神邑且聲天磐盾仍到
軍海中漸進中洲天皇始上皇子手研耳命帥軍而進至熊野
荒坂津亦名丹敷浦因熊野村熊野戸畔者時神吐毒气之物病瘧
由是皇軍不能復振時秘密有人號曰熊野高倉下忽夜夢天
照大神謂武甕雷神曰天孫原中国猶闇喧擾之者宜更

更往而征之武甕雷神對曰雖手不行而下手平定之劍刺國
稚自平矣天照大神曰諾時武甕雷神答謂之名曰手劍稚曰
師霊今當置於庫裏宜取而獻之又孫方命曰唯々而寤之明
旦依夢中教開庫視之果有倒立於庫底取而獻之
云々
新宮之地方名之宮地有母熊清荒坂荒行天皇時牛熊出地
建社之仍有名上熊野中熊野下熊野之新宮詞名曰
日本第一大霊験所
根本熊野三所権現

第一　本社　結宮前　伊弉冊尊
第二　本社　中宮前　伊弉諾尊
　　　　　　　　　　　　　　　相殿
第三　滝御殿　　　　　　　　　速玉男命
　　　　　　　　　　　　　　　国常立尊

第四　天照大神　　若一王子
　　右四所宮殿各置之神勝男尊

第五　神師宮　　天忍穂耳尊
第六　聖宮　　皇孫瓊々杵尊
第七　児宮　　彦火々出見尊
第八　子守宮　　鸕鷀草葺不合尊
　　右各四宮一殿

第九　一万十万　　国狭槌尊　豊斟渟尊　相殿
第十　万請十三所　　埴土煮尊
第十一　那行宮　　大戸道尊
第十二　木持宮剛　　面足尊
　　右各四宮一殿

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

十二所後　三神殿

（住吉明神　天照大神宮　出雲大社）相殿

滿山護法善神社　八百萬神拜所

新宮ハ

中臣　帰元

天降ル神ヤ社ヲ云フ之ハ不ノ三所ハ有キ千年ノ古ハ大ナキ

神鼎島

ヶ浮　田侍

又ハ世ノ海ハ山ヲ為ル又ハ社ノ神ノ浮宮ハ云ヒ光ヒ

去ヒ入リ来ル所ハ出テ休ミ来リ神ノ座ヘ上ル下国禁制

ノ石表ハ石階ヲ上リテ山ノ半腹ハ大岩壁ヲ見出ス也大

岩ヲ切タリ故ニ大岩壁ノ ことく ハ有リ南海ヲ見ル

ヲ以テ基ト一段ハ十キ空ヲ山伏出五尺等宇ヲ

神殿神体

第一宮　天照皇大神宮

第二宮　地主　権現（方名下命　稚産霊命）相殿

神武紀曰　高倉下命　名知昔剱ヲ以テ此神社創建ス神庫也云

云

又旧事紀曰　剱ニ於テ化ケ出ル毒ヲ物成ル神吐毒人物成ル神天孫患

之不知出ル計愛高倉下命在所ニ中夜夢天照大神謂ヲ武甕槌

神曰葦原瑞穂国猶聞喧擾之響宜汝更往而征之武甕槌神

対曰雖ヲ不行而下ス平国征時剱授自平矣乃謂方名下

命曰予剱師霊今当置於庫裏宜永而献於天孫矣方名下命

稽首ニ拝而明旦開庫視之果有剱倒立於倉底因取而献焉

天孫適寝忽然曰予何長眠在此乎柔而善士卒悉復醒起矣

是師起ル此外

海御前　猛命彦尊

日本紀曰神武天皇師次于熊野山中嶮絶無復可行之路乃持道不知所殺時夜夢天照大神訓曰天皇明旦當遣頭八咫烏以為師導者果有頭八咫烏自空翔降天皇曰此烏之來自叶祥夢大哉赫矣我皇祖天照大神欲以助成聖業乎云云八咫烏蓋我角命所化也

飛鳥之神樂五社

第一　事解男命

第二　稲荷

第三　徐福廟

第四　三柱神　石櫃

第五　健角牟命　八咫烏社

以上

宮戸社　泉道守命

日本紀曰及其妹相闘於泉平坂也伊弉諾尊曰始為黄泉及思棄者是吾之情矣時是時菊理姫神亦有白事伊弉諾尊聞而善之乃褒詞焉

矢合神社　猿田彦命

火神社　斯速宗命

石神社　大巳貴命

八幡宮

大上宮　大巳貴命

谷王子社　菊理姫命

牛頭明神　板本、宇井、鈴木三党祖神

濱王子社　若女一王子

矢合社ハ宮戸宮ノ方ニ合祭社ト云

今ノ公同学校ニアリ

今ノ文旅ノ東門ノ前ノ丘上ニアリシカ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

登記

土坂子宮　土坂山姫命
妙見社　青彦命
鎌之社　手力男命
稲荷　御幸時祭所
小阿蘇宮　稲倉神
深谷神社　国象命
今神藤　神幸祭所
子安明神
加持奥社　少彦名命
恵田社　火神
金山社　金山彦命
黄根宮社　伊弉諾伊弉冉　早玉男尊

有馬村

中村

生本地本ノ山ヲヤ

火馬稲荷
牛尾社　住筒男中筒男表筒男
神上明神　勧請新宮上四社也
此上神社新宮十二所之摂社也
神藤やま
又道前太政大臣
又くまぢ、神倉山の石たゝ又のぼりまゝ、なを不祈ゝ
新宮ハ神宮ハ神名帳ニ載ル不志らアたまくいへと
も変流明王役行者地蔵なと、いひて正一宮神名ゝ志らす
わらゝおたゝたり無法とやいわん

御祭礼之事

八月十五日於戒島社御神事軽嶽霊ヨリ　十二所ヲ参中御
前同帳孝実子御神輿御所新山ヲ御幸一番給後二番

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

御幣、三貫鉢四張、次御神馬、右御釜掛掛奉、裏徒役之、次馬周、
次鞭、次御鍬、二張、裏徒役之、次惣社家、社僧、次惣行列奉
送二御祭所、役屋、先神無神浦、次祝詞、当屋家役之、次神輿、次十
人祝、右之衆、次御移祭終而、刻潜還御、是日従国守代参奉幣
号開家役之

日十六日神輿最後宮司帳、神輿、琴屋、奉還御神輿、御前、
田楽、神輿、次神輿御幸、一貫奉者、騎馬、次修法、御幡、御幣四張、
神輿、御幸、次神宮、次駕役、次田楽、次社僧、神輿、次鉦、出川際、
神宮、十人、早船十艘、御先漕廻、奉還二御神輿、御船、奉神輿、御船島
御幸、浦水、漕廻、三廻、奉幸、岸上、祝宮、御神供、酒、魚、味、御輿、赤迫
御船島廻、三廻、次乙巻也、御輿、舞屋、於汐原、奉神輿、新山、御旅所
位屋、迎奉、別当、神供、祝詞、田楽、神輿、祭宮、三舞、終後、次第、祭終之

時光照天皇万歳楽、歌北三廻、同子刻潜還御
右同日三方社人合兵士一人、宮中早宵、持鉾長柄、鉄砲、合五
十貫外、警固、其古徒別当、此今従城主出、
新宮の町より、御所行、田圃の有れを通れば、小山ばかりの
ふくろの侍が早取るとて、ひとり次第に上りれば、海辺に
中ノ屋敷、生れとして民家豊なれば、ふるれを通れば、海辺に
る遠浅なれば、出遊ぶことなれば、また、こうくう者と
やらん、いろいろ、なれの二人の侍が、ことよる、大宮海中に有
為て出遊、佳景、やはり、岡山、右へ、のぼり、左へ海中に、孫、南方
ぜ、新月、見い、そ、見れば、佳、出、岡、出、出、おたり、高く、見えり
大宮、おそ、左右、五本の、松、見、面白き、海辺、なり
三輪崎

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

海宮にて京家多く繁栄より実説多し行宮の京にて「くつし
くて降くる雨つゝみ」の歌あり海辺にて家もあらなくに佐
世岡をよめる事い実は幸久を前提政太田文佐経自相陽に
奉りける百首に

佐世岡就り人の衣手にさもき初雪の雪ハ消りぬ
三都の海を報所行て岩山の下個道を通るれハ吉沙かハ中
山に張かゝさと中岳の小石皆丸くして五色あり また種と
の小見あり右の方に佐世岡の道にたゝりの松とて
見また大河の松とて二つとそれ日記文庫也

宇久井村

牛村中を通りて かくど坂とて五坂中より海宮見ゆ又田圃
五坂を過れハ大くど坂とて三坂に茶屋あり この西坂にハ

たゝりの松大き
松カ

白菊に宿せ

樣もあり一坂かハ石をしきて蔵ハ切通し也中坂を下りて海
宮ハ石ゆ一海中に大へり石ハ海底多石ハ三石
なとゝ云て見申 また中坂右左に一里塚あり左に紀州
の境見申 紀州藩 雪郡宮ハ牛あたりにあらず 中岳 法師
の事に

しかり毋秋津の陣に陣をしておるゝ事とも 海つゝて行
陣山に名をたつ人ハ花とこゝに書とゝもかくやの陣のまゝ

宮の宮

三所権現の神社一宇 左右に石に一鳥居 世数戸 神官三 根
神と有また熊野宮一宇 神官 海山寺と号 真言宗 向 那
谷山に為 法の宮ともいふ

真言 法師

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03969

信夜叉神の下勝利村をなさるの宮ふきね信夜叉
右の方へ川ふ左ふ川あり川の向ふ多居あり これ天満と
ふ石の神社や天満へ大へちを立て高家多し那吾山へ行道
ふへあら立川向村井岡村那和の境の流牛巻し川ふ左ふ信
宮と天満の向ふへて海ふ入井岡村を過て上村右へ所祭り
へ武家古また立左ふ妙法山立右市場と神社牛ふへ家宮所
て立りてふへき向や牛道より那和の滝ふ流る川ふ信村
右岸滝の下流やこの村を流れ武家方ふ馬場といふ家居
数多有り 場を少し上りて多居東ふ出て下馬塚制ふ立
大村左岸より橋門まで七所巡石表ふ左右大杉植橋
ふ橋門ふこの信村家の金剛宮ふ行ふ日し門より滝ふ
て古所右ふ下ふ地蔵堂一宇ふ山下ふ地蔵又ふ堂一

地村ふ入の祭ふ
阿蘇ふ

宇陪見ふ無畏とふ村信ふのふ村観音不動の堂有り信
きれ立また滝の信ふ物四天観音一又五寸ふ十五間許の梅
の村右岸大石ふ鎖を以て繋くこれ滝の大水の時ふ信ふ
るふ為ふ村ふいふ山村下流ふ流へ逆ふ流へ
向ふ言葉明ふ堂一宇ふ

隠村

武松門院殿西のふ村ふ高ふ那吾の山ふ分ふ流れ
ふすくふ四のふ村ふ村ふこの山ふ滝信殿ふ一ふ最へ
くふ方ふ多ふ村ふ流へ来ふ見るふ言ふ村ふ若干の
遠ふ村ふ一つふの宮ふ四へふ村ふ信夜の宮ふ立
ふ信ふ言ふ夫数ふ一ふ村ふ改ふ言ふ信ふこれ山ふの禁の
梅ふ所来ふ村ふ夫ふ立の所数ふ山陽の上の山ふ登り

人ふ夫ふ言ふ夫ふ
宮測六十六丈

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03969

行基の真行報を以て陸奥の国に来へたもし孤山所宗寺
水福八河内と云所に居ハ見ハ見をたれとも
白川の大石大木おゝたくらへて見るに
大白川寺待ハ云悪流直下三千丈既を銀河落九天とつく
り出る事土のことくなれと牛潭かとくかゝへ
潭の下か大石をはたちその中に水石を倒し
出る牛大石の中か石数多なれと大石に
たゝ水どりまつごとくして見たをへ
一山おびゝきわたる信のいとく格方牛山の信仰かゝ
多くハ夜深いれを見ハ入ていを程更者たゝ
文学上人の牛潭を書して三国を双と云われしゆ
文学の浸れし潭ハ牛潭かハ方を西行法師三年の潭とよ

及しに牛潭の上かゝ方をかや仏上か文なる潭三ツ見をいへ
と答るかハ上ノ方たゝ遠近尋る人ゆをいへとも
労煩すといへり

三年の潭を探をを弾おたゝとく学ゝを三賞のつゝを
かゝ心地しはれハ　西行法師

身ハつる立ゝ雲の住ゝ方ハ心長なる三年の潭

那智か滝り潭ハ入童し信なるか牛上か三の潭おいしま
ゝをれへまいるやとゝ市住の信の仰ゝ
りけり花や咲ゝかんと尋ねまゝしかりける所ゝ
たより有ゝ心地しておけまいりたり仏陀の
つきたゝ如言語ハ潭とるかゝ国を探みけるハまを
とかゝこしおかたもきたるやゝ流れくたりてたゝと

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

くまのゝけを
石山院の法華堂の孫の侍りける 桜の木の侍りけるを見て
よ長一と すれハとよなやまひけんことを おもひいで
よりて
木のもとの十あまり なかるゝ花のうつるを見るにつけて
那智の山ゆ千日こもりて 出ける時よめる 侍りしを
前大僧正慈鎮
みとせ〳〵 那智の山のかひなくハたちかへり見もぬ春の白雪
信のもとより西国れきの御方をすゝめ侍りしに 三十上ゝ
鈴鹿とゝ侍り 伊勢数多侍り 御方を大ゝ三所権現宮殿
表ゆり本殿長さ十七間有といふ
那智山者仁徳天皇御宇始 第之構 十三殿 奉安 天神地祇 今

牛頭山ヒツ ヒツ ヒツ

宮所次第
第一 大日貴命
第二 国常立尊
第三 伊弉諾尊
第四 伊弉冊尊
速玉男命
自第二至第四殿 熊野三所権現
第五 天照大神
第六 忍穂耳尊
第七 瓊々杵尊
第八 彦火々出見尊
第九 鸕鷀草葺不合尊
第十 豊玉姫尊
玉依姫尊

地主権現御宮
証誠殿
中御前
西御前 本宮 御結宮
若一王子
禅師宮
聖宮
児宮
子守宮
老蔦十万宮

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03969

第十一　泥土煮尊　　叡倩十五所宮
第十二　大戸道尊　　飛行夜叉宮
第十三　面足尊　　宋特金剛

自第十一至此十三所御神

満山護法善神社　　八百萬神
鎮主社　　七彩名命

日本記曰七彩名命行廻巡之御供遂廻於常世郷矣社傳云
被出於湖時者為地神日而出之多富家王子者父ニ出見尊
御兄宮

移所

御幸之時御移殿後参詣諸人社家并衆坊長列等也
市野村

佐野ノ渡リ也

若一王子　　忍穂耳尊　天照大神　誓不合尊　　三宮相殿
濱宮又濱宮
三所権現　　彩女一之玉子尊　大山祇命　　三宮相殿
丹殿戸畔社　御母殿濱姫主明神
佐野村
佐野王子　　天照大神
此所有王子所御幸時移所也
古那有屋
頓当三山同儀宮從一方此種一二三而三山共豈伊弉冉尊者
也
伊弉冉尊を奏一有馬村ハ八鬼山のかたヲ有りと云
有馬村

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

梅の咲かぬ春の東望の遠き妙法まより近かりけり

ものの明や有馬の山の雪の月
花の雲みて天人の下りて御書一巻ときたまひて
恒座法師

天竺人岩石をかつぎたるとかや法の力をはかりもしらん
妙法山に那智より飛近しといへり此山中の竹樹は
また妙法山より近しといふ恒座の方か
お張の文ちくるを志不のたよりをもてかやきをいふかなて五月
那智山遊観星を観音堂門の下より左の方上り坂を大雲
寺といふの下り百町くたり百町方といふ男性義也二所詣
上り笠塔を断の和りか滝にとるかか立し十五町目まて新
滝又申す此百たりあてい滝の言さと行をと滝ひとしきや
うか思ふやうてふみかくさとなを自来すといへり日和

いと云ふ〻りて見へ此三十丁目茶屋五十五丁目茶屋をこ
れより十四丁下り谷川を渡りて物とすあやしきか
れて いよくを年く書おやあり 行を登り下りして滝わ
いの茶屋より折て登の山中を分いて志和ちたけり左
右を木おこすりて近く見へわ百くの谷水山ふたい
り怪しかをひつき道の外かをとつのあやふや段所行て
石仏数多立並へり茶屋有り新おれを建て
大雲承坂四丁先年三十三度順拝いたしを
住吉日方郡小池村厳誕寺と云内心迷ひ也
大雲坂二百町の内和を大石をしき今の石物を敷きしを
右の道心者るり十五町許のにり最しく辛苦せり茶屋茶屋
とて二軒を次第に行い安宝道の側かを資りを飾て掛り数

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03969

中根村ハ長野村ヲ云ヘシ

野行ハ衛士番ト称シ番屋ヲ設ケ住ス牛新仏ヲカラ
きいきかと云ハくさた敷所くたりて横宝なとも能ヲ生ありて
牛遣ヒ無生川ヲ渡リ山ヲ分ケ谷ヲ下リ谷ヲ上リ谷ヲ
下ル渡ヲ見ル中世来村ヲ過リ これより小口谷ヲ入ル中根村
氏家の例ハ大石有
ワラン大ヲ上ルハ中世ヲ来ル所ヲ入ル
又ハ二所村ヲ過テ市場村家宝ヲ又二所村ヲ過ル
村有小口村ヲ過リ雲寺志ヲ小口ヲ長ク多ク谷ハ
ヲ入ルこくちといる
山繁集
雲寺中志ヲ山ヲ越ハ中ヲ越キヲ入ルくちかわしの傍ヲ長ノ
小口迫ハ 演谷ヨリ二百五十所有本村表ノ
小口川ハ小鮎多ク在ハ又ヲ磐ヲ上ルヲ分ルトキ見有也那ヲ

大雲寺ハ鮎野
茅指道中ヨリ
雑賀ヲ

リ是ヲ上ヲ道ヲ登リ切宮ハ来リ至ハ おやくたとらし

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03969

熊野めくり　甫

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

早朝小口の宿を出て川を渡りて行く川あり渡れいまた川端の方より船路より見る大れの時十五銭中船の時五銭小船二銭と言れ来り此川を渡て民屋六軒あり是また小口村なりこれより上り平御所あり又武家一軒有りと上り坂を小金谷といふ十丁計りきて茶屋見る又小口の内なり谷の方の谷中茶木村とて有り川より二十丁目を恵良坂といふ茶屋見る所と上りて又二十丁目の城ヶ谷坂と有り山中小人家、庚家宅や林家宅と泊る　や方面本のことく城址数株見る此辺大変多いちづひ道ひろく石長数歩少し又茶村小谷小村より五十丁上りて茶の方小谷川の水を流さく関ヶ谷といまた谷の下をまれまして有り方ひろくまたひろ

三月明治二十五年頃十五歩ひろ踏ひろ時村築き出キ一路と久しトニ
七時ノ家ノ家ニ茶ノ農業盛ニ
茶ニ農業盛ニ野
より家屋二野

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

有之より坂あり又十五町許り下れば石堂峠といふあり
茶屋二軒あり休憩す此所より五十程上りて道平也又数町行て茶屋二軒あり此辺より
中辺迄下り坂也此辺より下りて左の方谷合に炭竈有り煙
立て四五軒もあり石堂茶屋より三十丁といふあり行て
左右谷に民屋見る河あり無名川民家あり
至中瀬下り平地十町許行て二ケ川あり
りて右り谷川を渡りて対岸に出る
川を隔て三ケ所共に弦川といふ合流
れより無名川に出川をたどり上る事五十丁許
の東に上りて川を左の方に見る
口にかゝる石階を下りて土橋を左の方に下り川を左

牡蠣茶屋へ松
畑茶屋より
牡蠣へ志賀より一方
道は平坦に通ず
明治四十五年頃
素屋より旅客
ヤマ宮山居住
より構ヘ
脇ヲ
松畑より下り峠
一日神社行と報
三ケ詰り
六時松畑ヲ
出ず九時より

本宮へ四里
半ニ行ト

中瀬へ出ヨリ道
半ニ行ト

里塚ノ傍ニ大阿
弥陀西林寺墓然ル
碑新ス

小見一所石と行に石橋を渡りて河に接現の開拓の水を
てあり木瓶を彫りたる石表あり墓所堂一宇を
川を左に見て行又右に流れて左に小川二所許を土橋
左の方に流る山陰の辺を行これ小原村の道なり
に左右の並木山くの木皆伐れ車道茶屋を共傍に小原
新道車道とあり碑石あれとも墓誌なし文字少見へず
又茶屋の辺に小菩石山とて有り小中村也其上に橋一
中辺千本松とて数株の千本松人工も植て名木を植る是高
趣を表たる言れ有中所を接現の花山といふ茶屋の辺の
わく中峠の辺りに大文字有芝を接ひしものに稀なり
りて中辺一人に心を付て見るとい
和歌南紀陸奥名所の人北陸りきこれより又

遍上人の書ハ名号

下りて湯峯といふ温泉有土坊の向大石ふ一遍上人自筆の名号とゝ所付たり石塔ハ

遊行上人四十二世策之寄永二年四月七日とあり

牛馬一度前の時奉仏殿新造ヲ寄リ新ニ殿ヲ造ル時ムシ湯ヲ以テ造之ヲ有案面目ニ

二層塔　文殊　薬師　軒仏かりとゝふ

薬師堂　薬師如来湯殿を以造之

家ハ某王山とゝ

真庭郡王子社　居ハ井宮の社ハ又ハ、たり依照教生護摩を

焚ク石表あり

東光寺　真言宗の寺一寺有

温泉

留湯　湯殿宮　おしちよろ　二百銭

男湯　女湯　一人まゝ三銭宛

また張湯場とゝ有

此所の温泉ハ右疫ハ一頭痛ハ身体外傷痛ハ一とゝ

ふ餘ハ小家物皮の膏薬ハ効とゝいふ又ハ都新し

此湯場ハ遊湯ハ谷川より ハ丈余り大き岩

樋ヲ以て此ハ湯を下りて湯殿と入また山の方より水とと

りて大石ヲ一ハ入れ水ハ此樋ハ流ハ谷の湯面ハ

ハ丈ハ熱を持て此ハ空ハ急熱を宮の汲ハ湯ハ

良久しくさめを又谷川ハ熱ハ湯ハ

薬師堂の下湯屋形ハ石坊ハ備前国国上住人造之

とあり また前ハ出ハ土坊の辺一新屋ハ

小栗岩屋力又とゝ

また石ハ湯果ハ熱ハ三十銭ハ谷ニ有

実況

ありまたちかしたり石ともいたり

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

大石軍(ぐん)にて出ル者ハ石あり これ新宮のかしこ又たゝ
ともまた一所こゝかたより穂ハ[illegible]たれ一ヶ文ゑ入ーと
もいひ伝ふるなり 出侍ハ
元結祭とて毎年祭をおこなひ生ものとなく宜ス
と、云ふ所ハ[illegible]より今ハ生ものとなり

湯峯泊り

伏拝へ行ハ本道なれと近道とて湯峯二廻の傍より路
巾の悪を上りて十町程行ハ谷川あり下湯川郷民屋左の
方ハ凡そ五十辺の山丈ハ[illegible]ハ左の山ハ[illegible]川対岸の方
ハ[illegible]

赤木対岸を湯峯より三十丁東方の主ハいわく屋敷と
りニ十六所を一屋と[illegible]山ハ[illegible]四十八所一見ハ

[illegible]といふ所と上るハいとく嶮地ハり五六町行て茶屋
有左右の谷ハ民家凡そ[illegible]三ー[illegible]またけハしき上りて七茶
屋あり是より下り[illegible]十二町[illegible]行ハ右の方ハけ[illegible]
ハしこれより山の[illegible]を通る細径也下ハ深き谷也七茶
屋左方の谷ハ民家[illegible]これより けハしく下りまたハけ[illegible]
た上るハけ[illegible]あり漸く上りて下る所[illegible]左右樹
木生茂る大木ハ

見ハ一嶺 茶屋を新屋鈴浦[illegible]より七合の
[illegible]地湯の峯よりこれまて道近しといへ一[illegible]甚ハやあり此
農夫の稼通ハり左ハくハ通るまて[illegible]守れを立る牛神より
権現の神奥を作る木出し山有[illegible]神奥[illegible]二郎岳[illegible]
いたりたみ[illegible]むりせいる

三神岩神

中宮寺伝説

[illegible]、糸りけるかきしける

俊頼朝臣

雲の写る三岩神流れ見を望むかゝれとを思ふ

また、中宮と北とを結ぶ道の場川、八丁湯等より四所、二里半とあれど紫雲の山は数遠し是より下り二所いかり迄て左の谷川有道場川渡せ右の方に子の社あり大函村猪二様をかやの川を民屋多し寄金あり真那子を子孫として有又村の出口の川有村をこへて坂の上りすして下るに行数道あり上のかたへ行へしと下道思しるべと行の但谷川を渡る事四五ヶ所又村と居ると左の谷川て見また村でこゆるとこの四所中迄村やゝ坂多あり一里坂あり

出家者あり左の道の傍に家あり此所おと伝に云ふ岩神藏といふ岩神王子の小祠あり下る所を女坂といふ下りはくして谷川村有川を隔てとちの宿とも茶屋二軒見えんこ間を書これより上る坂を男坂といふ下りはくして能瀬川とて有橋迄名を文殊といふ下りはくして能瀬川とて有茶屋また上れば小屋藏と云茶屋二軒見小屋王子と云小藏を又是より下る例の民家二軒見是まで迄て無瀬川といふ此所より迄まで行へ一軒家あり是より能中村あり軒家五軒の内の方石階の上に行者堂一宇を建て藏と藏を掛せり此所寄金多屋宅大かりて大なり此中村近所村を民家はこけりこの方の信仰石を以て此寺迄と所付たり所のよりかに北と北寺迄と中宮寺と北寺迄

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03969

走らすといふこれより ちかの村をかくり下りそこより
左の谷川ありまた向の高き岳山の下の島谷及び田圃を
見山を川の下を東まき堀のごとく其外の田圃を見る
その景面白き新也

近藤村　家多く留長三郎殿主なるの小村也近藤川舟
渡賃木一銭ゾ　川を堀一ヶ所ゾ　此村三軒ありそこより上コニ所
新田を家多ありまたこの村上りて家多を第二の頭とそ有言
ゾ　家多ありの内
不山陰若塔とも有り　其より次第かくたる谷の方又多く
上りて相坂嶺とて家多一軒あり　何志ん二軒ありそこ牛ゐ村也
不自由やそより　小所登れば十丈時そより下るかゆ地左方
一けハ一き下りまた十丈村也三ヶ軒あの通りかゆ有りそよ

りかくたりまたんく上りまた大かくたる道路
高原村泊り十丈時より三十一丁方と云高原村に宿より
ちかといくとりきのこの十丈時の通りより多かおよたれ
小左の家泊牛馬の出はかまを子孫現の社方其宗を左の方へ
行又左の谷川方多く下り道村と言ふの通り下り道悪し
谷川ありまたの方行て川左水多付い後舟をといふ者かり
村是村中の土村を通りて某師堂二年是牛を作家住安
氏の領地や大社屋とそ通より高き家の宮をいうやしたの
方の谷川方物一向長六間許の板橋是を下是宗し大石数多
方て水除よく船数多おつまる牛村を通りて川を左の見ち
くしまる左の谷の毛窮在是村の高を十丁目ゝの家多有り
断止れハ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

塩見領　芝村より一里ありといひ茶屋二軒立一軒ハ居
山領一軒ハ田辺領なり此蔵より田辺領津の辺又芝村の川
下筒田川なと云所見ゆる筒田村又田畑の向方ハ天神峠杉
いふ所南海目下ハ見へて甚美なり　また村下ヨリ上り
て村の方ハ結構なる茶屋あり　所柔なり　芝又芝見峠の内なり
と云ハ上より高く下るハ水の峠なり　此所大軍一
隊通ることより下長屋村といふ所と下り道忘し民屋所々ハ
りなの方ハ信田の岸ハ又杉一株あり芝見すゆ改ちんと
所のよハ景なくあり　きるとらすなら一本杉といひて
一一合ハ杉なりけるいすて置なりといふ所ハ
まくなり又なの方ハ社なれハ　芝屋村の鎮守なりといふ所
下り道ハ　くなり

上ハ柳村ハ至る　谷川を又谷合ハ武家数多なる方ハ
階ハ上ハ鳥居を谷川を渡る　上三柳村春宮居ましなの方表
の内社を又ハ外ハ中和尚三柳川右ハ上りて右の村の中ハ石
階ハ上ハ中和尚三柳村ハ表宮山と見ゆ
芝山ハ高く立き山也　城跡也といふ方の方ハ瀬の口山と
て高く高く山あり　右蔵村ハ上り土橋立ハ下三
柳村右の川向ハ屋敷多し三柳村ハ長き鍋出也村の出
口ハ立き所ハ五軒地蔵とあり又ハ　せんかく寺妙本道
と石表ハ立きハ　寺ハ寺ハ右ハ小川屋と茶屋有
芝ハ三柳村領なり三柳山ハ名所なり　また八上ハ
ハ

無事にまいり候ハ　ハ如及の色々の花きこりハ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

五行法師

待すらるゝやうの樣にかけりあるくれうすの者

此の素者を四て加み川を民を驚多見まき三四丁行て大

臥森有り中ハ牛頭天皇社有り西ハ地蔵堂中ハ小山有牛所を

中ハ社といふ有り方ハ宮嶽山見まる道を法師の言ハ

若くなるものより秘法ハ又傳ふ事ハ有れ共ハ師と待とん

また秘法ハ

いつのまにか山の秘法ハ山の名の動きまし法ハ物ありとん

又社の方ハ長岩山又ハ人王山といふ所をあんいわ

ゐやそれか帆ハ高有墨天ハ高れとも大ら方数所行方の方

ハ修験の身居建牛所ハ云れより数所行て

土物方ハ田辺所の入口地ハ家屋法樣者の居宅有所者

く書物をし田辺主子社年慶笠掛ハとて有勇金明神とて有

十一海浦ハ法象を習場といふ白長浦とハ牛所をいふハ道

長法師言ハ

さら浦と浦のはしり湯ふらすれて今又ハ多きの船とうらす

また平家蟹言ハ

家の付の船をとりん行の国の土船ハ浦ハつめるまさこと

神島磯間浦田辺三ヵ所の浦ありと云

津守国冬

ろの夜ハ沖合空又神ハ有の磯方の海ハ千ヶ所ありと

宮家

樣ハいそまの海ハ川筋のはかりけるうあハ長ハ

田辺の町ハ西ハ古物二ヶ有浦と称田を行ハ海中

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03969

小島二つ有大島をもと島といふかをおこしかをといふまた
小坂で海北小牛小竹とも大島宮海岸小谷を牛小竹とせし
出たる様かきあつこつれ小其下ひたるとも又海小長き松
原有此景ト此松松の中を行かをこしかあり左の方海岸へ
行小竹蓋寺神社を有小見あり是山をはこし山といふ入
江小船有西岸小網を引あり一軍で船人かこ弦来人はかを
以て漕出るまたかき神社を信ずり有の方上小をより口
言部砂界此道ぞ小大松二本を又ゞ左の信へ御小内小宮山
有法おなかの洞二見岳といふ則高島大明神の社宮と云

三名部海　高岳　　宮　　家

是海多ある方をわかまは海釣すあるを見て帰こん
右の方へ行松を通り坂小いたる牛俣椿梅梅おるて坂右

りて右小見市海大松有田の中へ坂せ入寺俗の見有也其
原小和二見牛西道松有南部井小いたる左の方小寺桑
原道原右小神社を大松数様有左の方小松林又右小小
社牛辺桑右有

三名島海　今南部と書り

大信正　言信

海人ハ此国をわけて紀の国かこ迄の方小磯かつをしらん
此長く至宮ヶ島の言有時を過て有へ行土松を大りや
方小の時小舟海有船宮の守れ有也紀和地の川とか海
船の使録宮を有大水中小水と三ヶ小紀仲国の人たあり
もしかつ言まり行国おしへ小くを有たきよのや

山川村　右の方行名森明神の社と二所あり

南部領　家者二新五地蔵堂一宇有り海辺の小きゝかれ
れ小勝れて家々陽除有り田山日下小石多し又田畑に利
近く石ゆ出所有り目葉小用る家屋を言南部の所れ山の
内村有り海中より上りと云南部領の名有り
片岩峠　家数三軒有り下りはくして右田園民屋
多し右の京小社有小舟の馬有之夫小有し行
東岩代村　土物を海りて小拾ち
岩代峠　此所を下りても右田園又土物を海り拾
有之通る
西岩代村　柏ヶ谷村　中山村
報恩行て御切目信小有る者の方小社有り寺又川部海岸
代峠より出ると通よりかしこと小東岩代より寄小及れ
い心いいそき迄小れ十く又紀家小見くす一一和歌を有
く家くれれる日のうちからいかれをかい有り寄きり中
山迄の坂の上より見れ小海辺の海火と数多見くし千屋
海千葉の海ゆといへる所かるくし
岩代　神祇の御心を　後白河院御製
岩代の松小葉りを結ひ置て方代まそのめ変やを待
恵　寿　師
岩代の社すいあーと思へと事小ゆるを永をいふ小せん
千屋海　大海を　吉信
未遠き千さとの海小日の行て秋風たくる岩代の松
切目山　寄る波　定家
きりめの中まよふ小石の朝ゆ千夫石の子たれ妹小おいやらん

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

切目泊　今きりでといふ

のこぎり坂とて左不多の清水そそあり　切目王子神社左ハ海みまさ山下りて川有これより印南領左ハ神社王子ハ通り坂を下り町わいたる

印南　川在村を渡りて左の方土橋を渡りて北の辺ハ出る　左ハ行徳辺ハ至る海中ハ有山とて大松一株ありて島出又坂へ上りて法華島所法のひしりとて見事また下りて海辺ハ出る

津井村　坂方仲辺より西ハ上ハ出て五ヶ村有といふ

無事ハまゐりて待りける　此上ハ和上ハ上ハ待りける

入道前太政大臣

おり敷しなれ上と申ハけりハそそハ氏の話ハ有り

安徳陵　法師

紫江陵中の陵と傳ハ出ぬ上ハの二基の墓ハすこかり

柳井村

民家のわきハ法師時様とて在り方村を渡りて左ハ王子橋

現の社左の方海辺也

上ハ村　望嶋村ハ至海辺へいつる　土橋立さいわきの

村といふ仲郡より

此井辺ハ有る左の方ハ海ハ今ハ有る　山方ハ此ハ陵の石

とて紀の平右ハ天王より　坂を上りて竪村とて大木有り　日蓮右

の方国の中ハ喜代姫宮殿様たる　ハそそ　堀立法方の上ハ横

一株あり

十三塚

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

右の方山の原ハ在山伏の坂なりといふ

殺生村　坂平の茶屋を下りて右村の中ハ社前の池あり

南蛮屋村

右の方大きゝ所の田の中ハつくゝき並山有り城塚ふりといふ所の高き山の上をとれハ大山寺右を除るゝとも又上村と隔りて大成坂在不隙の上ハ

蓮華王子社在

猶三条四大臣

木ゝ寺多をかゝる事神あれハ志ゐやゐ能きたる届けり

殺生　敏正

神法命志ゐ孫を吹て小のゐりゝ世ぬタけふ一のふ

加蓮屋村　家宅ゝ左の方ハ日方川流れ有りこれより有また村と云茶屋有り此家より左の方ハ行相坂日方川　船渡ハ是此川岩ハ天田川とも云ゝとや大阿也

正　敏

その移日方の川ハとけやゝて水をたゝく流れの坂く

島ゆゆハいたる　数所行て右の方ハ城山かゝり山とて杉

形の左けりたる　山ゆ出る　左の方田の中ハ八幡宮を

小松原村　茶屋五屋ゝ所の端ハ道者ゝの茶

ありかハ輝して行

三穂の家前此辺ハ

宗田法師

その国やこ種の宮もさすこるかを低てを言るき松かことを言ふ

聯 題 法 師

いわやとかたてる杉のみるれを天れハむ二りの人ハおれ人るこのことを

また左ハ行土坊二所左右ハ小社並右左ハ上を八まん

山と言て大菊宗方八幡宮美大也階段前ハ馬場在牛所を過

てたの田の中ハ小き原有蜘塚といふ高代姫の墓也とい

ふ道場寺門前両角ハ墓者あり大也牛わを鐘楼ハ村といふ

遍照寺　天台宗

門前の階ハ十二階上りて二王門在　観音山衛照寺黄檗

宗泉華也

本堂左く大ハり観音を安置ハ往古の鐘楼跡　再興鐘楼

の跡塔の松山休安坊ア並鐘を ひとつハ第ゼ一跡

言れの銘ハ

人皇四十二代文武天皇勅願所

鐘まきり時代者

人皇六十二代醍醐天皇御宇延長六年甲子八月也

本堂の内ハ山伏と姫との位牌在其銘

真言宗自阿闍梨法師

紀州真那子清姫左月女清姫霊

また表なを中ハ信の方位なするを表ハこたれの通り

ちて那と関書ハ

右の門ハ出とまたハまん山の側ハり方ハ行

(西安村　川ハり上家田村　真言宗　左ハ地を

鞍馬村　茶者ハり左て牛辺の村ハ多ハ幡宮を薬師を

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

末吉村　此所を過て左へ二十丁許行へ民屋一軒在
そうり谷といふ巨谷へ出かいす
不谷村海へ
堀ヲ廿間左右山有て往会有り十町許行と
森の浦崩へ十八町坂半ハ登有り是より日吉郡境ハ原
右三所有在田郡なり
此ノ背山ハ松たつ夜鹿の鳴ヲ聞と
増基　法師
しかりけん妻ハ鹿ハ此の山の名を妻とは鹿も鳴らん
たをり つくして鹿の渡といふところ有り牛会有り原
谷より八十丁ときいふ
此の間王子社有のハ寺ハ所とハ有り

井河村　百姓多し道の傍ハ島屋庄建　稲荷稲荷の社在又
川有幅二十間許有り
戸野村　中村　名島村を過ぎ左の方海岸の傍近
有廿下ハ名島村在また三光国師遺跡とて
雁鳴山鉢仁寺ニ左のかたハ
ハ石の所　有昔の屋宅数多ハ有り又八幡宮鳥居ハ
宇田村　左の方業師堂一宇川向ニ寺一宇有川の堤並林
並幅二間宝長二十間許の土物土竹ハ有り所汐鳴ヲ門の口又
海中ハケナシ岩刈藻とて岩山二ツハ有
湯浅
此の又ハ熊野王子社有り此ハ湯浅左の子孫在し今ハ福
増寺と云一向宗の寺也と云また遺陸碑と云ハ是又一向

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

宗の寺あり これも左月うまるゝといふ道陸奥と一ふ寺
いいこゝ道陸奥か　湯沢の町瓦葺の屋宅多く商人また多
し男女の風俗も各別よし　此辺湯沢の新屋敷もし繁富なり
商人多し

田民　白崎　高島

是等の所いみ町山道ちこゝきかと同町なして　牛ハ去りて
後の段なり

中仙道　長方

きす田やもの又ハ町おひろふきこゝたまさ野たみ道をしる

秋家　光

張ゝこゝて道をは代の事ハ田長の清味をわたる　丹人
大宮元年　大と天皇紀伊ハ清水一ハ山の寺

志らさきふさちありとて　大船みすかた志やゆき　天帰こん

吉年　上人

秋さりてのわかたゝん人ぞハとゝをやりはたりまる
湯沢の町を過て土村をわたり　人町許行こゝ　小角水川あ
り　一屋家有
ホフヅト坂下りてかき川あり　逆川といふ海辺より沼
か山のわたく行也

逆川五ヶ　陸国

飛ちかふ波事の雲の光りかをさのゝまり川の流とハ志ゝ
去川村　牛所を過て又坂をいとの左けと云系家の
坂かるへしいとかの山い名所ゝ　ゝ有家屋あり牛
家の絵平片許ハ春時夫婦の墓とて　山ハ大元二ツ石塔

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

一あり其訳て基原抜ゆり京原山をよめる三寸

佐　吉

敵田姫いと切の山の麓なる墨ぬいの水深れいまるる時ん

仲　正

三月晦いとの星のこゑまもみたんと寸やさしみ見事

右の板を下りはくして京原村のいたる方の方ゆ上の王子または下諏訪に私の王子左の方ゆ稲荷大明神ゆり

雪崖山得生寺とて春時仲養ありといふまた京原山の麓ゆ宮き岩山ありて雪崖山といふ方ゆ見を寺中特有の山ゆりとて

有田川　船渡

ほふほと板より中迄舞物の本多し紀の国又ゆんといふゆ

皆中有田郡より出るといふ江戸京大坂へ出ること多し

宮原　所々に屋敷多し

南村　右の方ゆ東村左此方熊野の原

熊野の原ゆハ寺見へて大成宿也

空村　左の方ゆハ八幡宮右の方ゆ所村の山在　左の方山より王子左の方ゆ民家二軒見えより十七町上の見茶屋也

かるの村　嶺ゆ家屋有不審なれとも大石立ちたる所ゆ地蔵所ゆ陸とて中ゆ彫付たり中所より海近見える三町上り一軒家立またこゑ町上れハ相村左の方ゆハ相見茶屋て宮原駅也といふ断上りてをゆ社立りたる方の方山の頂ゆ見る時大出立左の人のいわく目ゆ出出左の旅人等すといふ事ゆしてをれそと名目ゆと云中迄より清

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

弘大師の地の島山の場とて又母方の方谷の氏宮出長宮等
とて国家の崇敬一のみ寺在上りつくしと仏菜上一そとり
下り海部郡加茂谷村
当郷村　茶屋を大師の開とと有
加茂谷村　八幡宮を祭り　市坪村　三宮を社家等也
出茶村名方のを接現社也　すんか方の方へ行へ寺村
境内等
茶屋山　本尊千手観音　弘法作　堂前大麻杉あり
コヒヌせた条見の滝と方水のちらより　又小き滝が
一滝の下小祠あり　牛の宮奇蹟又よあり
また寺の入口ちいさき所ちいの中き石塔方謂所と云
又前の拝の方れを言　これより三の滝の滝が落りて十五

四上れい
築作嶺
菊かと駅王子の社とて在　茶屋有　地蔵堂一立り海中より
出現の石地蔵あり堂宇を安置す　寺き所在和寺辺の
海辺目下の見へて絶景也また茶屋のあき寺き所が開山の
石塔有是ハ弘下許下りた金岡華特校とて大木二株有り
一株へ接て茶屋ーとせその切株今と残れりせーは！九尺
余ありまた金剛砂石といいて木あり御下りて左の
方御倒れ
茶仲の松とて大木の茶掛れり
牛の宮とへ見の峠白茶屋ヒ十一年経と唱ーと也是あり
ーき宮ありとて仏の名菜と百姓塔ヒて老前の拝立れまた

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

代りの為の書の為なるべく置今の為やむれるべく古く
いま所の文字し等白とまし一の文字の方し等の代りたるな
今置代となたり

前大御宮の伝

後白の清水の祠の南より少し西寄り清水山
安　　慈
千年振る千年を松の葉の為のとして咲る花の神
蓮代王子社　大也廟より十八丁西の方社前の左の
おとそ百り
後鳥羽院　花山院　和歌浦といふて古き所の塔二大木の
下の方遠に見えたり九の代知れて信奉の公卿兵部卿守盛
一書右の人に宮宿の明月記等の人へたり兵民数多有

り中の明古京高方中所より下の田園の中の石の導路通り
鮮路美浦の道中九十九所の王子の一の中所の寺し王子
時宗の田一また大の方竹林の内鎮木宮地なり茅子殿
今の方といふ所中大の方の大松杉の小社南又不階上の
社なり中和とりて集茶といふ
船戸陣　左の方の演の宮とて百姓いる中村と陣
りて
中田陣といふ所行て年陣の至る美代の所より これまて
陣つ、き日方陣とも書り知て屋宮ヶ
年陣
紀三井寺和歌の方へ近く三井寺と二新宮寺といふ所の至
る三井寺年の一本桜を多く繁り紀の桜といふ也京大阪

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

おく雪と塗りいかの道の左方田圃多し左の方山下に宮の宮
と云所あり道側に石表其銘
巻ヶ原宮云
又延喜神名帳、時鐘堂前三年に建立し所数に行て星再拝
かいたる方の方岡の下に八大龍王の社在左の方南門外
に仁王再拝かゑる
金剛峯寺と云
是西国三十三所の第二番なり観音堂い山のかたちの寺
き所に方丈既堂也其外梅檀社祇園堂二座塔あり二王門
石階五段本尊上堂より築り和尚山わの所眼
下に見て絶景の極也のぞりて風流たるき絵図の住僧
多しといへとも行基の真筆まれなる〳〵と云ふ

奇陳に弱の陳の陳まれて見へ陳る奇あり名方陳琴陳か
と云へる所に牛陳迄歌うやいつれも奇方
琴陳　平
紙の国新琴陳のかまち葉ひとえの日くらしかつく聲人
名方陳　信雲
太宰の月名方の陳の浪の上に秋はおこるといすみすもらん
琴陳　仲立
春風に波の立ちぬ琴の陳にかゝる日の影ゆところなりけり
琴陳　家
こゝろやそなた野辺の志ゝきまたちたる琴の陳
仁王再拝門前に入江を取かのりて琴陳の向漕れ行いり
せの春風の下に至る

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

布川の松とて布川村の側に見ゆ
明珠寺とて山の下に有日蓮宗の大寺也山上に妙見の社有
寺あり妙寺に祀る古座相の御母義珠殿の御位牌所なり
といふ
妹背山
二重塔　四面堂　井陰水也　左に光輝殿の下に沙さ一入て
ゆ　ゆきあり也　此所に
東照宮小の御方御霊屋なりといふ　高野寺也
元祝部山に天然の岩多勝れ五上大田の様に見れい神社
仏閣いとりかく古座帰て居ければ一一不の光景なまやり
今遊覧なるすす幸也
いとせの隠に寄所十九に児童数多あつまりて此所の名

所とたーはへーと云ひて学日をとりて御遊を学ぶ所有
紙屋石　紙の田木石
仏殿石　仏殿ありといいまたてんさう寺石也
松石　夫婦石　へそいしなといおかく迷て故老の
興とは
雛木の社　三の杉といふ石杉也
明日の宮座　岸辺の宮座　かくみ山　塩竈
市立の社
おすー此所に梅垣橋太古豊寿といひしーその頃の歌田光陣
正左衛門と云名藤仲の忍びーをうたんたり富小藍やきの
染小みやのーを絵小折しとや
春日石　岩小玉陣　嶋の石表といふ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

玉津島神社東の方へ一丁程の所に遊覧亭陸奥守宗
也と云神詠の碑とて大きゝ碑やまた神すりとも云
池中に石あり浮石といふ
社の西の小山を伽羅山といふ前の小山を鏡山といふ
両山皆青葉樹の文理のごとき岩屋いづれの石山にても皆一
石なり岩あやゝきものゝ中に両山とも岩穴あり神宝
加上石　天狗山　其外の石々数多の石といふて
多し中略
御導の児童をたゝかれて死す
紀三井寺にて門前をとゝく馬に乗つれていさせの山に
暮しかゝれば宿を思ひ入れて花一へられて見る雑山坂
のやつれをはつゝくせられて心ものをきやう山路なり

の天狗山あるかゝい新しやあるねんくこせよとゆいに石の
まもこさりまん

和歌の浦

海へたゝかに出て游覧をしに世の景色地の景色とて歌を和歌の
浦に南方に詰て入海也俗説に牛浦に和歌を見てわかの
浦に片男浪といふこの所悲なり貝原先生の言男はとゝ大
波なり女浪とゝ小波也とゝ書紀を信ぜんあわつの
内なるとて かくる法師の理にたゝかる事やるべきとお
もふ　この人わかりて後人みしかたり丈迷さまれんたけ
わかりと牛屋迄ふやまらるて小さとあて火ーくん侍りしふ
いさゝか俗説のことくふかしよりの つ事の所のことく
お歌はあるよりふ書あるたちまちあれの浦ふたるみ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

ちくまいかたを変えると古寺かんのこの俗説の言ふ所なり
言ふ又ちまりて河おくまると云ふ也五右衛門への方いた
つぶまれるといふ意味明かきこ中に某某名ふ中に河い海字
無義とかけり中文字ありて字の心明らかせ字いやをめ字也
言ふうちムれハ河おくまると云ふやいとそ多又といへり
いとそ多と云ふ中と云ふ也中に某の字ふ多し中海の住某関
しふまりて日を暮せり我中某者をさやうりて海辺ふ陣
陣しをまさわれてけをうつせり又長平海ハ某といふ者
東照宮　天満宮　五陣寺　松三井寺
妹背山　石男浪　右川松　比丘尼寺
あーへ宗いいもせ山の有条者又のある所ふり是京人の言
ふうりと名付ーふらんハ某の日五陣を陣をいつれて古

来の名所ふいなり也

二編　当氏

人とふ又をとやいんこ陣行者人江の書の有けれの
和方松原　錦宮　広大院
雪降る茶の松原ふりけりいくとせめらん五陣行者
日ーハ海　浜　家長
葉蓮華かんとを陣ーあるけの数ふ変立和歌の陣流
演辺の遊観音和歌山ハ遠く見る吉ふ又ーかくけ流す
ハハ見くく海の京都大仏有山辺の伽藍石寺日を暮せり
天満宮寺ふ所ふりーて美葉や
雲海陣東照宮の　社伝や変屋く方絶やく宗左作ると　いふ
慈眼大師宗堂

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

東照宮　山上ハ広く殿堂伽藍大小ハ甚多く国宝寺也
神仏多く保存あり和歌の碑を陰あり其筆勢力大り
山下ハ石の鳥居あり左の銘ア

東照宮指日幕表鎮石　　右之柱
紀明維堅寄献金弧　　右之柱
寛文丙子建元文丁巳再造　柱之裏社

右の銘柱の右右と記せ〜ハ神の左右やこゝ有たり今存ハ
もうゝ左右ハ無ハ折れ

さかり松　三四株ア一所ハ生て茂ア葉やさかりたる
様ハ人助木と名づくんせ四五株と柱あり

東照宮の下　和光院か

大猷院公　　厳有院公御廟有

右舞見峯ア和寺の市所ハ至りこの所を過て遠ハの有ア
行右の方ハ鶴亀島島遊岩あり此所を去た愛宕山紫ハ勢
原ア左ハ有たハ国ア村ア見ハ方松茶屋ア上ア在吹上の松
原ア小道也松の根方ハ有ハ出ア根株有たくさんあり
松根ア吹上ア小ハ和寺山ア和寺陣ア間ハ小の宮ア
氏云ア吹上の所ハ和寺山ア陣ア山ア寺ア生の在
宮有ア其本寺多し
台徳院秀忠公の御霊廟有ア所ハ有ア茂ア森也
岩山　陣所美ア裏ア下の境地ひろく高ア有多くし
て力大ア一ア上ア加太ハ行んア
ア岳の麓ハ行ア元ア川の下ア紀の川也ア川ア渡ア
北岳村　野崎村茶屋在　岳村　ア所ア道ア川在ア所ア同

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

金の工村と称す 特徴なき寺院 石仏を心を付て見るべし 此より右の方へ 堀ノ内へ出 又土橋を左へ 此より 左の方へ 家五軒 左の方へ 岡あり

松江村　茶店あり 左の方へ寺在 長き松林在 陣岡社 美濃国へ似たり 村在也 此所を過て 右へ大松一株あり 古下へ 石塔あり 十一 ありけれ 見れば 法名 信の墓 なりと云 右の方へ 十ノ在村 左へ行 西の在村へ 入たり 左へ行 若狭 [illegible] 左へ行 右圓の中へ 村在神の村 といふまた寺一寺在 左手に在村 墓有 三軒あり 此所へ 小き餅を 売こ の所の名 塩也 といふ 左の方へ 八幡宮 [illegible] 左へ行 見る 城大松 左の方へ 淡路村 見る 松 左へ 右右へ 池 在り 松 所 [illegible] 左の方へ 大松二株 [illegible]

行者の墓 松井 [illegible] 有 水 [illegible] 此辺 左右 ひきく 山 また田圃 あり て 谷の やく [illegible] 他 [illegible]

加太

春日明神の社 在 名 居 [illegible] 原の 鳥居 二 [illegible] 有 [illegible] 寺 有 [illegible] より 土橋 [illegible] 寺一寺 有 [illegible] 札場 より 見 [illegible] 結 [illegible] 見 [illegible] 四名 [illegible] 加太と [illegible] 民家つゝき

延喜式神名帳日加太神社

日本紀 古 [illegible] 名命 行 [illegible] 之 [illegible] 清 [illegible] 適 [illegible] 常世 [illegible] 此神者日本の醫の祖神と [illegible] 見へ 大り

[illegible] 日本霊異記 [illegible] 姫命 [illegible] 此行 [illegible] 木田也

此姫命神社 加太 [illegible] 吾田 [illegible] 通て

[illegible] 蓮の堂 [illegible] 小社 在 [illegible] 前小島の名 [illegible] 此所 大和 [illegible]

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

外の山よりつゝきたる出崎也加太の上の山を糸井天の小祠是他山より山伏奉入して大和葛城山へいたる其間泉谷河

方ら海又ハ沖島と也

那の山つゝけり淡島の沖に島ヶ島とて時二あり西に有を真の鳴といふ此島の内の出崎を宮の崎といふ内に有る地の島といふ古屋小島一名おしまといふ淡路島又ハ号より地の島へ一り真の島へ二見を作る内也若ヶ島

又ハ女子聖護院三宝院法国の御祈禱所ハ一社人行の嘉右衛門と云士若ヶ島に居住して秘伝をといへり また若ヶ島に ひとり大蛇ありと云加太の内の片蛇を和田崎といふ加太淡島の前に入江也此半住居也西国の商船漁で繁く遠州ゑびすをのりて江戸奥州に行船に此若ヶ島と加太の間を通りまた若ヶ島の外を通り也淡島のまへに湊とから

ゝまといへとも旅船多く泊る所也室島加太の辺りより海ふかのそれい前に容船多く むすいに前に天山そいたりて左く深り沖に若ヶ島ゑへて長屋第一

加太

きの江通りを通りまた和歌山に至る 本願寺法華堂の外

寺の社相標社境内に大松有 是乃事也又より 幅下を作る日

前宮に 此く社前に 茶屋有 馬場 大路 本の 名所 大

也その前に 遠地反物 有り

延喜式 神名帳 曰

日前神社 名神大 月次 相嘗 新嘗

神代巻 日孁 日女尊 坐下 斎服殿 而 御神之 清服也 素盞嗚命兄

之則逆剥 斑駒 投入之 殿内 孁 日女尊 乃驚 而 陰 陰以所 持 梭傷

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03969

体而神退矣故天照大神入于天石窟云々時高皇産霊之息思兼神云者有思慮之智乃思而曰曰宜圖造彼神之象而奉招禱也故即以石凝姥為冶工云々奉造之神是則伊国日前宮也」

宿事紀曰一説織女稚日姫尊乃驚踊傷体而神退矣稚日姫尊者天照大神之妹也

倭本紀（新日本記引用）曰天皇之始天降来之時共副護斎鏡三面于鏡一合也注曰一鏡者天照大神之御霊名天懸神一鏡者天照大神之前神霊名国懸大神今紀伊国名草郡宗歌解祭大神也」

野有記曰鏡三面中伊勢大神記紀伊国日前国懸

倭名抄曰霊異記云今懸宇為霊意也

紀伊続風土記曰日前宮天照大神也国懸宮日天也

神代口決曰日天者宮殿也　度会延佳主延貞云按日事記今錄

造日天体鏡也不合意云々

石凝姥云采久元年五月十四日中申有新屋御ト日前国懸両社司申云四月十六日国懸宮御戸不意外令倒事　又曰長寛元年正月廿八日紀伊国日前国懸社焼亡於御正体奉出事」

日前訓比乃久麻　梅前記オトノクマヲ懸ス古今集さゝのくまひのくまかわの駒とおもへしかはしら水うゝ敬ひたまひん

風雅集紀後之名草山と詠ぬ神のはきりせを神わさとけるひのくまの宮

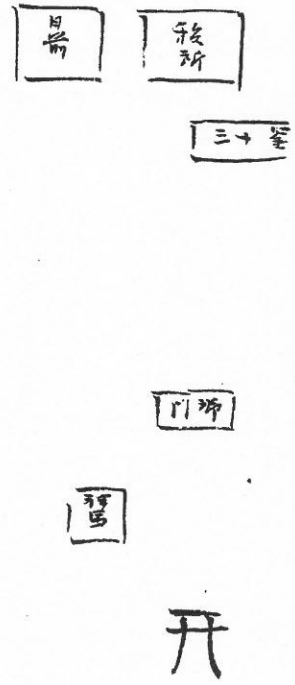
国懸神社　名神大　月次相嘗新嘗

天御祖日本鳥元年七月癸卯奉遷於居紀伊国国懸神

国懸

国

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969



境内廣く百四十六社を合せ祭神五十石本社神樂所鳥居ハ
國君より給はりしなれ給人の勝手を以て修理をといへ
り神職を任の國恕と号す
鳥居の前を東へ行民屋を甲中を通り左へ行ひきゝ山麓
を行ハ右の方田の中に別神の社とて石表制札ありを云う坂
を下りて宮濱村また同村の中を行ハ右新所左大坂を越て

たる石表有坂東へ行ハ大坂を右の方へ行左右田園也左の
方ハ鳥居見ゆる大い和佐山麓より惣社村と いゑ宮手山
麓山かとい へる所なり
たいの濱新宮　紀の川や
南郷新田　東西あり一里塚まんすゆ松を右大ト日前宮
へ行ハ右へ四里方といゑ右の方ハ南郷むら右へ方し
上り坂を少し行二十五丁松とそ左の方田園の中ハ左の方
ゆ二丁松有此外坂ハ一株こそ
川辺村
此村を左へ行ハ山ヒ道を直ハ行向の坂へ上りすこし左のハ
た へ行ま左へ新しき切側の坂を五町行向ハ松林
乃へ分なれを左ハ乃坂を右へ行大松一株有宮を過てハ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

川の材を流り山伏の住をたゝ行またたゝ流ス
唐地村　此村を過て又左へ流りたの方へ行たる住僧の
地とそあり
西坂本村　東方村中ハ村有是根来村の入口也田村流
舟流を過これまてまきしハ一本を多よりて牧くとりくあ
さ此所なる
根来寺　川筋より山里まて四里
八十坊有中ハ大塔院法頭職たり是を荷ゲといふ寺一
ハ前ハ西東の谷を稱しけるを惣門なし其外谷大
谷小谷蓮花谷とて大庫谷四ヶ山方ハ寺谷の内戸地ハ有
深面の地ハあり其谷ハ又ハ南ハ白ハり二重大塔ハ小谷
ハ有覚鑁堂あり鎌倉の不動ハ大師堂也門の額一乗山と

有住堂鐘楼文殊堂池有又師堂有方ハ門大塔不動堂有大
ハ珠ハ方形堂ハ方形小池情ハ塔ハ不動堂ハ門前ハ有
知積院の塔ハ西の方ハ二層塔ハ有伽藍法院の塔ハ大塔の近
ハ有ハ法頭堂法院ハ客殿ハ有伽藍大師堂大師寺の伽藍ハ
法院を勝ハ山伏大塔法院を禁断ハ門おらんとそ堂をこゞ
ちて左の川を下ハ和歌山の西今傳法と号ス下ハ牛一橋ハ
大坂まて　門前ハ有ハ寺住せんたの寺を
堂ハと和ようハ法堂をこ不ハ事有外ハ
ふハ有ハ根来ハ有ハ大坂ハて其材木の家ハ
所を伽法と云ハ　根来ハ家二所ハ寺院の伽藍ハ
ふ山寺ハ山ハ一寺を法ハ有ハ山ハ以本基業徴
ハ寺頭ハ一寺伽材木竹等を作ハ和泉山ハ寺ハ山ハ新作

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

して寺屋とは仏寺ハ新家の真言宗の社堂鐘楼門塔也今ハ寺
法院を寺号大乗院ハ池坊専応ハ表玄公の根
来社を以後役二寺の住持地と云て役所ハ寺と云り
宮鐘の墓方十間許ハ保存ありしとも世ハ知れ報恩ハ
り

東坂本村
是西坂本ハ日し根来の東の坂本也
宗相院と云所ハつきとこれより古仏と成て社務役の
勤やきて
有けハ天いそきと成かり秘訣をねころのかは同ヨリ
伊法院ハ思ひ法ハけ侍りし
高野山別住こと云さらハのりさつたくん世ハたなり

雑賀の不動を拝み
うこまかき河をわけ行ける姿をちのかたなる土仏とそ
新田村　西見谷村吸村と云ハ　右の方ハ国名寺ハ大師寺
也　四日市村一名ハ　東大井村をより村と報多と
いへとも粉川寺の道筋ハ是れ参詣を右の山ハ
せ寺とそ様門見ます　せるたみ池田の左ハ
いる右の方ハ那田の親寺とそ有り小川ハ
川の神のおたゝ所といふ
粉川　大井ハ一名ハ六名粉川の町筋く宮家ハ
新屋といふ粉川国とそ名産ハ茅産法布ハ
国を報ず　ものを粉ハ細工人多しといへとも茅や製ハ

いまとれり紙次右衛門と云者年貢の事ゆえ
の其ままに国と製し差上しかば皇城所ゆ御らしにて吉野山
御堂下しかるべき事なりつしかりなる其節孫新
兵衛の御供遊の角のすしさを表うたとゆえれて居つ
粉川寺八四国三十三所の三番の札所なり観音堂大也境
内なり
国道路　童男　行者供　観音堂より北へ出て
牧ヶ崎堂なり　牛馬の東西に見し日蓮御門跡なり
り堂なりといる
八幡宮　御神天　寿日の社い地の盛りの動き石を
なすまた神なりと大石を以て立たき豊名なるといる　田中
神なりとゆ出ずるを中宮寺傍ゆ寄るゆえ

弁生明神　白山権現　観音堂の上の山の半腹ゆ差三
二王門あり右ゆ金毘羅宮なり　粉川の寺中別所なり
粉川寺の別当なりける信不動院事なる給寺ゆ
ヨくかりて借りけるゆ年八てのち然ゆまるつしを
粉川寺の形で通りける明神者をおこたさ和かーけ
る

宮　宮

尋ね大家神と与ちを導かゆ家のこかわと和ゆい

開祖山
粉川観音ゆ来宮法師ゆ出給ふる寺ゆ
若衣かつり寺山ゆ色かーて仁家の泊の月を孫与ゆ
住職　兵田の御寺の事なりと

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

いとくさ　義の方たりいなたみたといふ物ならん昔人の事歟

田中井戸　方角さまわさあらず

門の辺り歌りの所

田光院入道

おさまる田中の井戸の跡かいあれて今は廃れる昔哉

家蓮法師

性善田中井戸の口に苔むすたりあくかを詠ずるなり

新川泊

二王門の前を西へ出川を渡てイノカヅ村小倉田村右の方

小小悟宮有り橋を上りて志賀新池そして志賀村池のわき

小方池橋を渡り上り新宿と云少し下りて左の方小ばた

方

中新院殿若きもし水なりそしてその名守しといふ流谷川か

そひて下る左の方小待方嶽と云石像の地蔵有りこの辺を

大木新と云谷川の村を新

弾通相村　家屋一新有

馬市場と云り先年兵乱の国替の時大田石表有

其銘

南無不動明王　大嶽山　是より十町と記

是小方の嶽を新て新谷の方に出る大川白水上大木村及有

大木嶽　石山を切通たる坂有り新川より三里余今仙石

みて思し

大木村　家多有り

正一位勝明神社有境内広しこれより長三間斗の橋を渡り

て左木の池をまた山合を行左の方小法光の松とて大木一
株有て方岩山ハ又北十間計の松ヲこし土佐村の中御れ
樣より左へ行板あり海濱見まる事外計ヲ直ニ行ハ見懸
道也今ハ懸通へ行あ左の方池の西橋を行て日根郡村ヨリ
左に大井関慈善院とて有り

江一作大井関大明神鳥居の前へ出る 牛馬場先を西へ行
近道ハ無名川から用水川の西の堤を行川ハ懸通し
の馬場先へ出る左木の関矢一鳥居の額 懸通大明神左の
方小寺在社家有り

本社 拝殿 鐘楼有未社四社境内矢し
下向小ハ行矢の方へ 出る本社の後ヲ個道有て林の中ヲ出
北ハ紀州道也茶屋有左の方ヲ貫之社の側を有と云

海辺小帆下ヶの松とて見事徒左ハ鳥居有 今の街道の方ヲ
有一と云

市山村 左の方小池三有ヲ二者大也

市場村 竹村の南の端より佐野村へ出かんとて左へ行
村先寺として日蓮宗の寺社堂の南の左ヲ道れハ右の方小又
寺有社有り

佐野村 民家多く富有また おゝ一民屋ヲ瓦葺ヲ宮せ
へく所でかさ長ク家ヲ又多し船ヲ持て家業とするもの多
し又中小大宮南在今村大明神とて有又小祠社両所有り

湊 左九郎といへる人門前小見事成大松一株有元
方ヲ向故寺一助柱数十本ヲ太の方社在左の方

ハ出村 八幡宮後小寺有り

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03969

鶴原村　道の側に牛ねての松とて有これハ一式種の松を
植やうりたるか
清水ハ鶴原道ヨリ北ヘ清水と清水といふ畳陸場ヶ所共
に牛馬飼場の名なり
物産　二新方ヶ鶴原ハ海辺ヨリ牛馬ヨリ来
ル牛蒡山ハ紅葉の頃ハ一山錦をいりたるごとく見ゆ
と言ハ大ヶ宮ヶ迫村を通り一里ハ方沢村ヶ出宮ヶ水ヶ
し方ヶ　本法村ハ中ヶ迫ヶ牛迫左右ヶ神社多し　また池ハ
方ヶ市ヶ長者ヶ屋敷ヶ大初一郎ヶ方ヶ方ヶ隠宅村
海老村海ヶ鶴川ヶ
具塚ヶ長し多くハ百姓ヶ制所ヶ迫ヶ川ヶ
年和田　岡部村ヶ庄屋ヶ也所長く有家多し此所海辺ヶ

紅葉ヶ大坂ヶの海辺ヶ故ヶ百姓ヶ貝原ヶ生ヶ結ヶ外ヶ
りヶ日ヶ紅葉ヶ国ヶ土地肥饒ヶし農ヶ業耕作ヶ方ヶ用
ひ五穀菜蔬をうゑるヶ精ヶ敷ヶ麦及菜ヶ他国ヶ出ヶ
て売ヶるいし田畑の内麻苧ヶ多ヶ生ヶ麻ヶ苧ヶ織ヶ
引たるヶ所ヶ也ヶ田畑ヶ功ヶ用ヶ精ヶ出ヶ五穀ヶ他
ヶ所ヶ出ヶ大和河内ヶ出ヶ来ヶ種ヶ蒔ヶ
ヶ一種ヶ唐ヶ大ヶ豆ヶ作ヶ出ヶ来ヶ土地ヶ肥ヶ
方ヶ百姓ヶ五穀ヶ土地ヶ肥饒ヶ
出ヶ人ヶ力ヶ役ヶ民ヶ
て耕作ヶ道ヶ
んと老功ヶ人ヶ
年ヶ和田ヶ入口ヶ

り志ゑ一言葉の物葉師ハいかゝ君仕の門ゟ入行へし左右
の左へ行へ山ゟ路を右ゟ一ツ通るへし　青木村　岳岡
村　此間ゟ川あり　今多大津村石橋有中橋より下分ハ大津
也

下ハ大津村　東方有橋多ゟ止る有り
助松村　左右ゟ社有ゟ左ゟ寺有
宮石南村　宮石村　左右ゟ社有
今在家村　東左有ゟ寺　十四五丁許松林有出茶屋有村
中ゟ社在右ゟ　觀音寺村　下條大津村右の方　上不津
村迄ゟ海道也見渡ゟ海ゟ　四里半ゟ　ちまく新たゟ海ゟ
新たゟ出たり　此ゟ　まゝ
延喜御社名帳曰

大鳥神社　名神大月次新嘗
姓氏録曰和泉神ゟ大鳥連大中臣同祖天児屋根命之後也
續日本後記曰承和九年十月奉授和泉国從五位下大鳥神從
五位上
三代実録曰貞觀元年正月廿七日和泉国正五位下重八等大
鳥神從四位下　又曰同三年十月二日授和泉国從四位下重
八等大鳥神從三位
堺　貝塚より四里半
堺の東ゟ天子の陵有一ツ有歴中天皇の陵ゟ日本紀延喜
式等ゟ詳也一ツハ百舌鳥陵仁徳天皇ゟ長ゟ墓ゟ大成陵也
一ハ反正天皇是堺の墓ゟ池の陵也此三陵とも右の書記
ゟ詳ゟれハ此ゟ略ス

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

堺ハ神社仏閣多シ南ハ堺ノ町中ハ和泉摂津両境界を大小路といふ堺と号ハ両国の境ハ有所なれハかりといふ

大和村　わ様の上方ハ住吉の神輿を置奉る石有り高屋有り

安宅町　南ハ九町有りといふ東西ハ民家有り両側もハりわし一筋也西側ハ芝神の社と有り

延喜式神名帳曰　天水分豊浦命神社と有是也此辺ハ一九町程の地也

住吉　社記参照

大坂

御伊勢の名所の示記せ一有またそのさすわを知り見聞ハ是人のいぶかしきを用ひすかれにたりてさらせ一所くまたをしよりて盗名家を一宇ハ建観せハ満たるかもとも片宮たる住吉　とすハ正して紙地ハ近人のたより御せせんと窮ハ祈して迷中ハ隠を

今参都

桐ヶ崎	有馬村
水俣橋	新宮
神原山	遠住浦
秋住浦	鳴那浦
那智	噂瀬
小島	塩崎
花之宮	
御船島	
佐野岡	
清宮	
玉柳	
和深山	

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

美手登　　志古
小比　　海の山
音無梅　　十城苑
真垂浜湾　　幸荷島
三郡岩礁　　石不別川
岩日川　　三柳山
秋津野　　人玉山
風呂山浦ノ　　祝島
日高郡
三郡郡浦
今宮湾　　千屋湾
上野　　市日ノ川

三穂石窟　　奈ノ首山　　由良
白崎　　吉島
市田郡
逆川　　糸奈山　　海部島
白神社　　蘆代　　名方浦
琴浦
名草郡
梅隈宮　　玉津島
和歌浦　　和歌浦　　牛の窓
吹上　　結城浦
磯城山　　待乳山　　竹台坂
妹背山和歌浦ハ有ラハ近年名ツケシ事ナリ　古歌ノ文

し妹背山かゝあらはれ紀ノいせ山と記せり八名手の市場の上ハ湾ノ山とて有名なるいふかゝ人し見る先生の言ふ所の市場半里許上ハ湾山見る所の川の中多也発。也宝暦集以下古今多し嘉長記此外余捜きて許あり何中ハかくの如くらし松坂舞れり表第世所こゝ捜し所と言ふ所ハ今洲あけてのゝ赤色ことハ下妹背山ハ紀ノ名有よ頭脳ハ地中ハ其外の書れ又日牛紀ハ名やまり事若し牛所ハ山といふへき山ハ牛山ハ川隈の中ハ名れハ陵の山やいせ山ハ古ち名里上市の名たりハ妹背山をと言ふ所也て其中ハ流る古今の民ハ流れ人妹背の山の中ハ流る言葉川の上ハ西の中と よめり言葉ハ妹背山ハて牛方ハ名へり又隠侍特言の意の部ハ名ふれと

ここ妹せを言葉ハ妹背の山の中川の水とよめり然れハ言葉ハ名ふ所と言葉ハ下紀の川の流れ紀の隈の間ハ妹背といふへき所ハ三人ハ行すて名所を言葉といへハ古の人ハ又つこ行て名を所ハ言葉ハ。其所ハ叫ぶ事多くこゝ多しおくわきまふへし

今夏山　吉野大川の流
三鈷杖　玉川　若浦　洲岡
若浦　吉隈　若川　風伯山
風森　田中井　植柳森
若宮　根来　紀国白雪問とも

多くのいわく紀の国ハ以上の辺国名村せいふ牛言いふハ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03969

こ鴨長明方ハ　おりてあるまかあさてよれ化の
川上の白鳥の岡とよみけれハ岡戸村ハあるまし　岡戸村
ハ化の川下海邊ニて　川上とよ　京ハかゝハをとよ
り長明ハ和ハ歌りてよ　右和の名所ちかいたる事もあ
るまし　けれハかたく岡戸ハ山ちかき大高化伊の境なるへ
し　今於ニ所部ハ
前ハ化田中井ハ筑州の境ハ方ハたかた置しかもしハ方
井田村の事ハいるゐる村ハ田中井ニて井ニて
ハ方まるせいたけといふハ　あらすやなを名和ハ心さ
しあることの名を詠のみ
坂上　磯の海　松江の　西磯ハ　井村
館海　タツミ　島　館等宿りと
といふ

妹賀島　形見海　　おふ浦　相模ハ新宮川上ニ有
三輪ノ崎　今三輪崎といふ
右の所ハ古歌ニ　とへとも前ハ記せしことく其和ハ書と
とめたるとあれとも今ハ記さす

原本ハ初音山陽之図を写
昭和十年十月廿日了
著者不明也
製書中根七郎

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03969

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03969

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03969